

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	2011910001
<b>開設科目名</b>	西洋哲学思想論			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	~
<b>担当教員</b>	入不二 基義			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<b>授業の一般目標</b>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	2011910002
<b>開設科目名</b>	西洋哲学思想論演習			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	~
<b>担当教員</b>	脇條 靖弘			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
古代ギリシア、あるいは、現代の哲学関連の文献を読む。					
<b>授業の一般目標</b>					
文献を正確に読み、そこに見られる哲学的議論を整理し、評価する。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 文献を正確に読む。					
<b>思考・判断の観点:</b> 文献の議論を哲学的に考察する。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
レポートによる。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
yasu@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	2011910003
<b>開設科目名</b>	西洋倫理思想論			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	~
<b>担当教員</b>	古荘 真敬			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
思想文化論(哲学・倫理学分野)専攻の大学院生のための原典講読を行う。参加者の研究関心に応じて、適宜テキストを選択する。					
<b>授業の一般目標</b>					
西洋哲学・倫理学のテキストを、翻訳に頼らず、原典にあたって精確に読解する能力を涵養すること。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 西洋哲学の原典を読解するための語学力を向上させること。					
<b>思考・判断の観点:</b> 異言語によって展開されている論証を、日本語空間のうちに再構成する能力を向上させること。					
<b>技能・表現の観点:</b> 異言語テキストの解釈・再構成を通じて、自身の日本語による哲学的議論の表現力を錬磨すること。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
平常点による。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
furusho[a]yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
水曜日 12:50 から 14:20					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	2011910004
<b>開設科目名</b>	西洋倫理思想論			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	~
<b>担当教員</b>	円谷 裕二			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
フランスの哲学者メルロ=ポンティ(1908-1961)を取り上げながら、彼の現象学や存在論について考察する。特に彼の身体論・真理論・言語論・芸術論などに焦点を絞りながら、デカルトやカントやヘーゲルやベルクソンやハイデッガーなどの哲学と比較しつつその哲学的意義を際立たせる。					
<b>授業の一般目標</b>					
心と身体 精神と物質、特殊と普遍 思考と感覚 具体と抽象、理論と実践 時間と永遠など、ギリシア以来の西洋哲学に特有な二元論的なものの見方が、いかに世界についての一面的な捉え方にすぎないかを十分に理解し、それを通して、世界と自己の真相に迫ること。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 幾人かの哲学者の考えを比較することによって哲学的な知識と理解を深めること。					
<b>思考・判断の観点:</b> 哲学的な知識と理解を踏まえながら、自ら考え、判断することの大切さを自覚すること。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
レポートによる。但し、講義回数数の半分以上に出席した者のみにレポート提出を認める。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
『知覚の現象学』 / メルロ=ポンティ					
『意味と無意味』 / メルロ=ポンティ					
『シーニュ』 / メルロ=ポンティ					
『見えるものと見えないもの』 / メルロ=ポンティ					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	2011910005
<b>開設科目名</b>	西洋倫理思想論演習			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	~
<b>担当教員</b>	古荘 真敬			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
西洋の哲学・倫理想に関する研究発表(または文献報告)と討議を行う。					
<b>授業の一般目標</b>					
哲学・倫理学の諸問題に関して、各自の問いの水準を深化し、専門的な知見にもとづく議論を構成すること。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
授業内における発表報告により評価する。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
furusho[a]yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
水曜日 12:50 から 14:20					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	2011910006
<b>開設科目名</b>	中国哲学思想論			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	~
<b>担当教員</b>	高木 智見			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>時代・地域・民族という三重の意味で異文化世界に属する先秦時代を共感的追体験的に理解する。そのために、当時の儀礼や習俗を復元し、それらを支えていた観念を明らかにする。史料の面で言えば、伝来文献と出土資料を有機的に関連させて分析を進める。今年度は、戦争関連の資料、図像資料を分析して、中国における国家共同体の原像をさぐる。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>講義を通じて、つまり史料の解読を通じて、先秦時代というはるか彼方の世界の人々が作りあげていた社会に入り込み、実際に体験して、再び現代世界に戻ってくるといった実感を持つことが出来るようにしたい。先秦時代は、中国文化の「核心」が形成された時期であり、この時代に対する十全な理解がなければ、真の意味での中国理解はできない、というのが私の考えである。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b>左伝や国語などの伝来文献、金文や木竹簡などの出土文献を日常的に読むことによって、史料から何をどのように汲み取るのかということを理解する</p> <p><b>思考・判断の観点:</b>構想に基づき史料を読み込み、立論していく過程を示し、研究論文作成に必要な一連の事柄を理解する</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b>思想史学、歴史学、文学、考古学のいずれの分野であろうと、古代中国の様々な事象に対して、興味を感じることができるようになる。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
レポートにおけるテーマの選択、構想力、論理力などを見て、総合的に判断する					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<p>メッセージ 何を語っているのかではなく、史料をどのように読み、そこから何を語ろうとしているのか、その過程を見ていただきたい</p>					
<b>連絡先</b>					
人文棟五階510					
<b>オフィスアワー</b>					
火曜日十六時から十七時					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	2011910007
<b>開設科目名</b>	中国哲学思想論			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	黄 晓芬			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>古代中国における都城と陵墓の造営は、明確な思想的背景をもち、自然景観との調和を注意深くはかり、計画性の高い設計に基づいたものである。本授業は、考古学資料を素材に文献の考察に加えて、陰陽死生を表象する二つの神聖空間を具体的に解析し、古代中国人の世界観と創造力を探究しようとするものである。</p> <p>前期の授業科目は、国家形成期における大型環壕・城郭集落から周、秦、漢、唐時代の都城建設に至るまで、史的な考察に焦点をしばり、中国古代都城の特質を考える。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
中国思想史の面白さと奥深さを認識することができる。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 中国思想史の基礎知識と概念を伝授し、モノ(遺跡・遺物)を通して理解することができる。					
<b>思考・判断の観点:</b> 人間の思想と社会を深く理解するため、歴史的感覚が不可欠であることを説明することができる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 現代における新日の社会問題を考える時、なにかよいヒントを提供することができる。					
<b>技能・表現の観点:</b> 問題意識や物事の洞察力などを少しずつ身につけることができる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
レポート提出: 問題意識、思考力、文章力を見て総合的に判断する。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
中国古代制度史研究 / 楊寬: 上海古籍出版社, 1993					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	2011910008
<b>開設科目名</b>	中国哲学思想論演習			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	~
<b>担当教員</b>	高木 智見			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
現代中国を代表する古代中国史家、呂思勉氏の著作・論文からその力作を選び精読する。					
<b>授業の一般目標</b>					
古代中国研究に必要な古代漢語、現代漢語の読解能力は言うまでもなく、論文作成に求められる史料解釈、史料操作、立論の方法などについての基本的知識を摂取する。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 現代中国語で書かれた論文を、難読のものでも読みこなすことができる。					
<b>思考・判断の観点:</b> 論者の立場に立って論旨を理解した後、自分の頭でその是非を判断できるようになる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 中国人研究者の研究に対して、抵抗感無く接することが出来るような意欲を引き出す。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
毎回の受講態度とレポートの出来による。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
正確にかつ速くよむことが求められる					
<b>連絡先</b>					
人文棟5階					
<b>オフィスアワー</b>					
火曜日16時から17時					



<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	2011910009
<b>開設科目名</b>	日本思想論			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	~
<b>担当教員</b>	豊澤 一			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>本居宣長の思想に焦点をあわせ、その内実と彼のみていた思想的風景(古代像、先行する国学やその他の学問思想、アジアの宗教、宣長の後世・現代との関係)などを往還しながら、考えていきます。日本の思想家といわれながら、あらためて見ていくと、その印象は「日本的」という形容詞が的確なのか、どうか異なって見えてくることもたしかです。宣長の古代像(神々の世界)、人情のとらえかた(物語や和歌)を、宣長なりの日本の思想文化の歴史的展開のとらえ方と関連させながら、その志向していたものを解いてみます。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>本居宣長の理解を深めることを通して、日本の思想とくに近世思想への問題意識と知識をひろげることをめざします。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>「小テスト・授業内レポート」「宿題・授業外レポート」「出席」を、4:3:3の割合で評価します。</p>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<p>日本の思想 / 清水正之:放送大学教育振興会, 2008          国学の他者像 誠実と虚偽 / 清水正之:ペリかん社, 2005</p>					
<b>メッセージ</b>					
<p>授業内で、感想・疑問点を書いてもらう3回ほどの小レポートを課します。</p>					
<b>連絡先</b>					
<p>豊澤 一(内線:5218, e-mail: toyosawa@yamaguchi-u.ac.jp)</p>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	2011910010
<b>開設科目名</b>	日本思想論			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	~
<b>担当教員</b>	柏木 寧子			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>日本倫理思想史研究 日本の倫理思想史における基本的文献を読み解きつつ、人とは何か、人の生の拠りどころは何か、といった問いをめぐる倫理的思索の実態を探究します。今年度は、主としてキリシタンおよび反キリシタン思想を手がかりに、神道・仏法・儒学思想の捉え返しを図りつつ、日本における超越観・宗教観について考えます。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
日本倫理思想史について、とくに超越観・宗教観に関する知識・理解を深め、関心を広げること。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
(1)授業内の小レポート。(2)期末試験 なお、出席が所定の回数に満たない場合は期末試験を受けることができません。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
『キリシタン書 排耶書』(日本思想大系 25) / 海老沢有道ほか校注: 岩波書店, 1970					
『キリシタン教理書』(キリシタン文学双書 キリシタン研究第30輯) / 海老沢有道ほか編著: 教文館, 1993					
『南蛮寺興廃記 妙貞問答』(東洋文庫 14) / 海老沢有道訳: 平凡社, 1964					
『岩波キリスト教辞典』 / 大貫隆ほか編: 岩波書店, 2002					
『吉利支丹文学集1・2』(東洋文庫 567・570) / 新村出・柊源一校註: 平凡社, 1993					
<b>メッセージ</b>					
やむをえない事情があって欠席する場合は届け出てください。					
<b>連絡先</b>					
kashiwg@yamaguchi-u.ac.jp 人文学部4階 410 研究室					
<b>オフィスアワー</b>					
水曜 13:00-14:00ほかの曜日・時間帯でも可能ですので、あらかじめメール等で面会の希望をお知らせください。					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	2011910011
<b>開設科目名</b>	日本思想論演習			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	~
<b>担当教員</b>	豊澤 一			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
受講者と相談の上、講義内容を決定します					
<b>授業の一般目標</b>					
受講者が自らの研究テーマにしたがって研鑽を積むことに、助言・指導を行います。そのことによって、受講者が修士論文を滞りなく完成させることを目標とします。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
受講者のテーマ等に応じて、適宜、対応します。一応、期末レポート50%、出席50%としておきます。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
人文学部棟 409 号研究室 TEL:(内線)5218 / e-mail : toyosawa@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
大抵、研究室におりますので、電話で(あるいは e-mail で)在室を確認してからご来室ください。					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	2011910012
<b>開設科目名</b>	日本思想論演習			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	~
<b>担当教員</b>	柏木 寧子			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
日本思想史の諸問題 受講生の関心に従って、日本思想史における基本的文献を採り上げ、主として内在的読解に拠り、併せて関連文献・先行研究の検討も行いながら、その思想内容を具体的に解明します。					
<b>授業の一般目標</b>					
日本思想史に関わる知識・理解をもち、内在的研究の方法を学び習得するとともに、自らの関心に従って問いを発見・追求すること。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
(1) 授業時間内の報告(演習)。(2) 期末レポート。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
kashiwg@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
水曜 13:00-14:00 ほかの曜日・時間帯でも可能ですので、あらかじめメール等で面会の希望をお知らせください。					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	2011910013
開設科目名	比較宗教論			単位	2単位
対象学生				学年	～
担当教員	ALAM DJUMALI			区分	
<b>授業の概要</b>					
前期の宗教学特殊講義は「宗教と女性」をテーマとする。次のような問いを出発点とする。シャーマン(巫女など)や呪術師・妖術師(魔女など)の担い手とされるのはなぜ女性が多いのか?なぜ「母なる大地」と呼ばれるのか?男神にはなぜ、男性の力を上回る神妃や女神が常に伴うのか?性差と宗教的な表現には、何か相関関係があるのか?男性は、女性に何の宗教的・神秘的な力を見るのか?彼らは何を恐れて女性を支配したがるのか?					
<b>授業の一般目標</b>					
「宗教と女性」の課題について、資料的な情報を知って考えるだけでなく、深く想像して顧みながら、その本質の体系化を試みる。最終的には、宗教学という学問分野から見た「宗教とは何か?」および「宗教と女性の関係とは?」という課題について、一定の図式と枠組みを身につけ、個々の宗教とジェンダーにまつわる現象を一定の視点をもって捉えたり分析したりできるようになることを目指す。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 宗教学と「宗教学から見たジェンダー問題」に関する主要な課題について一定の理解と知識を身につけること。					
<b>思考・判断の観点:</b> 個々の宗教とジェンダー現象について、一定の視点から分析できるようになること。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 日常生活における身近な宗教現象について関心を抱くこと。					
<b>態度の観点:</b> 授業中の良識ある態度(私語しないこと、遅刻と途中退室しないこと、居眠りしないこと、など)。					
<b>技能・表現の観点:</b> 宗教とジェンダー現象に関する記述力を養うこと。					
<b>その他の観点:</b> 宗教とジェンダー現象を捉える感性を磨くこと。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
授業内小レポート/小テストを12回、中間レポートを1回、最終レポートを1回、課す。中間レポートと最終レポートは、「文章を中心とするレポート」と「描写・描画を中心とするレポート」のいずれかを選択できるようにする。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
授業はできるだけ体系的にわかりやすく、範囲を限定して行う。授業に出ることによって参加者が、毎回または全体として、宗教学に関する一定の内容と枠組みを身につけることを目指す。そのためには、参加者のほうも、毎回の授業に出席し、多少の復習をする必要がある。					
<b>連絡先</b>					
ジュマリ・アラム / 電子メール:djumali@yamaguchi-u.ac.jp / ホームページ:http://alam.hmt.yamaguchi-u.ac.jp/ / 電話(研究室):083-933-5220 / 研究室:人文学部413号室					
<b>オフィスアワー</b>					
随時					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	2011910014
<b>開設科目名</b>	比較宗教論演習			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	ALAM DJUMALI			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>参加者各自が研究したい、または関心のある宗教現象を取り上げ、宗教学的な考察と分析を行う。宗教学の領域範囲内の自由発表形式となるが、宗教学的な視点・枠組み・理論・方法論が十分に活かされるように、プレゼンテーションの準備段階または初回のプレゼンテーションで、個別的な指導やアドバイスをを行い、実際のプレゼンテーションや次回のプレゼンテーションにおいて反映されるようにする。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>宗教が人間と社会の生活にいかに深く浸透し、不可避的に伴うものであり、一方では人間生活にとって根源的な役割を果たしているが、他方では形骸化に陥ったり社会・文化的な問題をもたらしたりする場合がある、ということを一定の分析的な体系と枠組みをもって捉えらるようになること。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b>宗教学のアプローチと枠組みを身につけること。  <b>思考・判断の観点:</b>個々の宗教現象について、一定の視点から分析できるようになること。  <b>関心・意欲の観点:</b>日常生活における身近な宗教現象について関心を抱くこと。  <b>態度の観点:</b>宗教に関するいろいろな課題について積極的に知ろうとすること。また授業中はできるだけ気楽に、明るく、元気に、積極的に参加すること。  <b>技能・表現の観点:</b>宗教学の理論・学説および宗教現象に関する記述力を養うこと。  <b>その他の観点:</b>宗教現象を捉える感性を磨くこと。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>最終レポートを課す。最終レポートは、「文章を中心とするレポート」と「描写・描画を中心とするレポート」のいずれかを選択できるようにする。</p>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<p>日常生活のあらゆる場面を「様式と媒体」の次元として見て、その背後にある精神的な世界とのつながりを語る事ができたら、それだけで、それは立派な宗教学的考察になります。</p>					
<b>連絡先</b>					
<p>ジュマリ・アラム / 電子メール: djumali@yamaguchi-u.ac.jp / ホームページ: <a href="http://alam.hmt.yamaguchi-u.ac.jp/">http://alam.hmt.yamaguchi-u.ac.jp/</a> / 電話(研究室): 083-933-5220 / 研究室: 人文学部 413 号室</p>					
<b>オフィスアワー</b>					
<p>随時</p>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	2011911001
<b>開設科目名</b>	日本歴史文化論			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	~
<b>担当教員</b>	真木 隆行			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
論題:「安徳天皇の誕生」					
概要:					
安徳天皇(1178-85)は、1180年に平氏政権によって擁立されたが、1183年には都落ちし、1185年の壇浦合戦においてその幼い一生を終えた(8歳)ことで知られている。講義では、彼の誕生以前に遡り、その母親である中宮徳子の妊娠後の安産祈願の様子から明らかにし、更には皇子出産、出産後の成長儀礼、皇太子としての擁立、天皇としての受禪や即位などの様子について、具体的に明らかにする。					
また、当該問題に関する「平家物語」の叙述の虚像と実像を確認しながら、史料を読解する眼を養う。					
<b>授業の一般目標</b>					
(1)当該問題について理解を深める。					
(2)歴史学の研究方法の一端を理解する。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 基本的な事実関係や諸論点について理解する。					
<b>思考・判断の観点:</b> 史料・先行研究・通説・講義内容、これらを独自の視点で捉え直し、自分なりの見解を導き出す。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 関心あるテーマに即してとことん問題を掘り下げる。					
<b>技能・表現の観点:</b> 自分なりの見解を論理的にとりまとめて論述できる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
出席状況、授業内コメント票の記載内容、定期試験、以上から総合的見地に立って評価する。					
(原則として、5回分の欠席が発覚した段階で受験資格を失うこととする)					
試験では、講義内容を踏まえ、その内容を各自で構成し直し、論述文としての体裁を整えて論述する。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					
木曜日の放課後、または金曜日の放課後。					
真木研究室は、人文学部棟4階(415号室)。					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	2011911002
<b>開設科目名</b>	日本歴史文化論			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	~
<b>担当教員</b>	田中 誠二			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>「萩藩中期の藩財政」について講義を行う。萩藩中期の藩財政のうち、家臣団財政と藩財政の不可分の関係、家臣の「経済」論、物価と貨幣の価値変動、幕府軍役と藩財政、等の主要要素を解明する。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 萩藩財政の構造的理解を目指す。</li> <li>2. 中期藩財政の特質を解明する。</li> <li>3. 家臣の「経世済民」論を藩財政とのかかわりで解明する。</li> </ol>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b> 1. 藩財政の主要要素を具体的に理解する。 2. 萩藩財政の普遍性と固有性を理解する。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b> 1. 藩財政の主要要間の連関の仕方を考える。 2. 家臣の「経済」論を考えることで、思想史的アプローチを理解する。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>学期末に試験にかえてレポートを提出し、その内容によって成績評価をする。</p>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					
<p>月曜と金曜の昼休み。</p>					



<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	2011911003
<b>開設科目名</b>	日本歴史文化論			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	~
<b>担当教員</b>	纈纈 厚			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
本年度は歴史認識 歴史和解 戦争責任 戦後責任をキーワードにして、日本近現代史研究における現代的な課題を念頭に据えつつ、講義を進める。					
<b>授業の一般目標</b>					
歴史事実の解析から現代社会の現実を理解する力を養う					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 日本史の基礎知識を習得するために基本用語の解説を施す。毎回の出欠票に質問などを記述し、知識・理解の進具合を確認する。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 当テーマに関する事件やエピソードを紹介し、身近な問題として捉えられる視点を養成する					
<b>態度の観点:</b> 自ら積極的に関わることなくして同テーマは抽象度の高い領域となる恐れがある。よって、積極的且つ真摯に学ぼうとする態度が特に求められる。					
<b>技能・表現の観点:</b> 毎回提出予定のミニレポートに講義への感想や質問などを記述させる。					
<b>その他の観点:</b> 毎回の授業後提出を課しているミニレポートへの記述内容を参考とする。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
レポートと論述私見					
<b>教科書</b>					
侵略戦争 歴史事実と歴史認識 / 纈纈厚: 筑摩書房, 1999					
日本海軍の終戦工作 / 纈纈厚: 中央公論社, 1996					
近代日本政軍関係の研究 / 纈纈厚: 岩波書店, 2005					
帝国日本の原型とその再登場 / 纈纈厚: 凱風社, 2009					
「聖断」虚構と昭和天皇 / 纈纈厚: 新日本出版社, 2007					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
歴史事実の正しい理解から、あるべき歴史認識が生まれる					
<b>連絡先</b>					
koketsu@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
Wed.AM10:00-12:00					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	2011911004
<b>開設科目名</b>	日本歴史文化論演習			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	~
<b>担当教員</b>	田中 誠二			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
受講者の課題に近い原史料の写真版をテキストに、史料を精読していく。また、受講者の課題に基づき報告を行い、討論をして内容を深める。					
<b>授業の一般目標</b>					
1. 近世原史料のうち難度の高いものが読解できる。 2. 自分の主題について、史料に基づき論を立てることができる。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 1. 難度の高いくずし字の史料が読解できる。 2. 自分の主題に関する研究史の整理ができる。					
<b>思考・判断の観点:</b> 1. 史料を用いての論証が精密にできる。					
<b>技能・表現の観点:</b> 1. 自分の見解を論理的に文章に表現できる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
定期試験にかえてレポートを提出し、その内容によって成績評価をおこなう。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					
月曜日と金曜日の昼休み。					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	2011911005
<b>開設科目名</b>	日本歴史文化論演習			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	~
<b>担当教員</b>	篠崎 厚			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
日本近現代史関連の論文を叙述する力を養成する。					
<b>授業の一般目標</b>					
課題設定の方法と論文叙述のスキル習得を目指す。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>思考・判断の観点:</b> 資料・文献に自在にアクセスできる能力と習慣を身につけ、自ら分析する能動的な姿勢を養う。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
報告内容とレポート内容及び出席と参加姿勢					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
本当に書きたいテーマを見つけること					
<b>連絡先</b>					
koketsu@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
Wed.AM10:00-12:00					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	2011911006
<b>開設科目名</b>	日本歴史文化論演習			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	~
<b>担当教員</b>	橋本 義則			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
受講生は自らが関心を持つ日本古代史上の種々のテーマについて、具体的な史料を用いながら調査・研究を進め、毎々その成果を報告してもらいます。報告終了後、まず提示された史料解釈の妥当性を中心にして検討を行い、さらにその研究史上における問題や論理の展開などについて討議、検討を加えます。この過程を通じてよりよい修士論文の作成を目指したいと考えています。					
<b>授業の一般目標</b>					
受講生は自らが関心を持つ日本古代史上の種々のテーマについて、具体的な史料を用いながら調査・研究を進め、毎々その成果を報告してもらいます。報告終了後、まず提示された史料解釈の妥当性を中心にして検討を行い、さらにその研究史上における問題や論理の展開などについて討議、検討を加えます。この過程を通じてよりよい修士論文の作成を目指したいと考えています。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 修士論文作成に必要な日本古代史の高度な知識を獲得する。					
<b>思考・判断の観点:</b> 修士論文作成に必要な論理的考察力を獲得する。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 修士論文作成に当たり、自らの興味・関心に基づいて、問題を設定する力をつける。					
<b>態度の観点:</b> 修士論文の作成を通じて、自ら学問上の常識や通説を疑い、解決する姿勢を養う。					
<b>技能・表現の観点:</b> 1, 論文作成に必要な史料を正確に解釈できる。2, 正しい日本語(書き言葉)で自分の意見を論理的に表現できる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
学期末のレポートによって評価する。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
本授業では授業時に受講生全員がパソコンを持ち込み、使用することが必須とされる。また毎回の研究報告発表者はあらかじめワープロソフト(ワード)を用いて報告に必要な配布資料を作成し、授業時に教官および受講生全員に資料をワードのファイルで配布することが義務付けられます。また資料の作成に当たってはスキャナーなどの周辺機器の活用も必要とされる。					
<b>連絡先</b>					
y-hasi@yamaguchi-u.ac.jp 研究室:人文学部3階					
<b>オフィスアワー</b>					
時間のあるときはいつでも					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	2011911007
<b>開設科目名</b>	日本歴史文化論演習			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	~
<b>担当教員</b>	真木 隆行			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
日本中世史に関する史料を輪読すると共に、受講者自身の研究成果報告と質疑をおこなう。 輪読対象の史料に関しては、受講者の関心に応じて選択する。受講者が修士課程の大学院生である場合、修士論文の作成に向けた指導の機会となる。					
<b>授業の一般目標</b>					
史料をより深く読解し、各自の研究をすすめる。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> (1)関係史料や先行研究について把握する。 (2)関心ある事象の時代背景を把握する。					
<b>思考・判断の観点:</b> 史料・先行研究・通説などを独自の視点で捉え直し、自分なりの見解を導き出す。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 関心あるテーマを見つけ、とことん問題を掘り下げる。					
<b>態度の観点:</b> 一研究者としての専門意識を持つ。					
<b>技能・表現の観点:</b> 自分なりの見解を論理的にとりまとめ、よりよい報告や論述ができる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
報告内容と、提出レポートで評価する。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
いいい修士論文を読ませてください。					
<b>連絡先</b>					
今年度の研究室名簿を参照。					
<b>オフィスアワー</b>					
ご来訪ご質問は、在室時には基本的にいつでも歓迎する。 真木研究室は、人文学部棟4階(415号室)。					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	2011911008
<b>開設科目名</b>	中国歴史文化論			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	~
<b>担当教員</b>	馬 彪			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<b>授業の一般目標</b>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	2011911009
<b>開設科目名</b>	中国歴史文化論			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	~
<b>担当教員</b>	滝野 正二郎			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
長崎華商泰益号を中心として華僑による商業活動および東アジアにおける華僑ネットワークを検討する。					
<b>授業の一般目標</b>					
長崎華商泰益号による商業活動等を分析し、中国人による商業経営の方式を知るとともに、東アジアにおける華僑ネットワークを理解する。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 中国人による商業経営に関して知識を得るとともに在外華商のネットワークを理解する。					
<b>思考・判断の観点:</b> 国民国家の枠にとらわれない人間の歴史に関して考え、「一国史観」を相対化する。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 華僑など「マージナル・マン」ともいえる人々の活動に関心を持つ。					
<b>態度の観点:</b> 国家にとらわれない態度で歴史に向き合うことができる。					
<b>技能・表現の観点:</b> 知り得たこと、認識したことを論理的な文章で表現することができる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
学期末レポートによって評価する。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
華僑 / 斯波義信: 岩波書店, 1995					
華僑経済史 / 須山卓: 近藤出版社, 1972					
華僑社会経済論序説 / 市川信愛: 九州大学出版会, 1987					
長崎華商経営の史的研究 / 山岡由佳: ミネルヴァ書房, 1995					
長崎華商と東アジア交易網の形成 / 廖赤陽: 汲古書院, 2000					
<b>メッセージ</b>					
漢文史料、ときには漢文で書かれた文書や蘇州号碼(中国の略数字)で書かれた帳簿なども提示しつつ授業を進めるので漢文史料に興味のある学生諸君の受講を望みます。					
<b>連絡先</b>					
研究室: 人文学部 517					
電話: 内線 5229					
E-mail: stakino@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
月曜日 9・10 時限					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	2011911010
<b>開設科目名</b>	中国歴史文化論演習			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	~
<b>担当教員</b>	滝野 正二郎			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
史料読解 論文講読を行う。具体的な内容は受講予定者と相談の上、決定する。					
<b>授業の一般目標</b>					
2年次に修士論文を作成するために十分な、問題設定、史料収集・読解、論文収集・読解などの各能力を養成することを目標とする。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 学生自らの研究を遂行するに十分な知識、事項に対する理解力を得る。					
<b>思考・判断の観点:</b> 自らの研究課題について、その根本から思索する。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 自らの内面と社会の両面に関心を持つ。					
<b>態度の観点:</b> 自らの判断で研究を遂行する態度をもつ。					
<b>技能・表現の観点:</b> 自らに必要な史料を収集、操作し、そこから得た知見を論理的な文章で表現できる技能を持つ。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
平素の授業に於ける史料読解などの作業および研究発表と学期末に提出するレポートによって評価する。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
研究室: 人文学部 517、内線 5229、E-mail: stakino@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
月曜 9:10 時限					



開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	2011911011
開設科目名	西洋歴史文化論			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	尼川 創二			区分	
<b>授業の概要</b>					
【19世紀末までのロシア史の展開】9世紀のキエフ国家の成立から反体制知識人たちが「人民主義」の革命運動を開始し挫折した19世紀末のロシア帝国の状況までのロシア史を通観するが、ロシアの反体制知識人たちが常に意識した西ヨーロッパの国家・社会の歴史とロシアのそれとの対比も絶えず行うようにしたい。					
<b>授業の一般目標</b>					
専制政治と農奴制を特徴とするロシア帝国が何ゆえ、またどのようにして形成されたのか、そして19世紀末に始まりもなく挫折する人民主義者の革命運動がいかなる問題点を内包していたかについての理解を深める。西ヨーロッパとロシアでの国家・社会の形成課程および反体制運動の類似点と相違点にも留意する。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 授業の一般目標の点について知識をもち、理解する。					
<b>思考・判断の観点:</b> 授業の一般目標の点について自分で深く考えて見る。					
<b>関心・意欲の観点:</b> ロシアとヨーロッパの歴史について強い関心を持つ。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
期末試験 100点、無断欠席 1回につきマイナス5点、遅刻 1回につきマイナス2点。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
人文学部4階409号室 amak@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
月14:10 - 16:10					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	2011911012
<b>開設科目名</b>	西洋歴史文化論			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	~
<b>担当教員</b>	阿河 雄二郎			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<b>授業の一般目標</b>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

開講期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	2011911013
開講科目名	西洋歴史文化論			単位	2単位
対象学生				学年	～
担当教員	近藤 淳子			区分	
<b>授業の概要</b>					
<p>アメリカの多文化主義に焦点をあて、その歴史の変遷について考察する。</p> <p>アメリカは移民から構成される多民族・多文化国家である。アメリカの文化や価値観を宗教・政治・経済・外交・ジェンダー・環境などの分野から分析し、移民国家が内包する諸問題を理解するとともに、国家の統合と共生の問題について考察する。授業ではビデオを使って歴史的事実を検証し、また受講生が調べた移民の文化についてのプレゼンテーションを行うことによって理解を深めていく。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
アメリカの多文化主義が内包する諸問題を理解するとともに、問題を解決する能力を養う。					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b> 多民族・多文化国家がもつ諸問題への理解を深める。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b> 歴史的事実にもとづく歴史解釈を形成していく力を身につける。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b> 文化的価値観の多様性が現代社会に与える影響への関心をもつことの重要性を認識する。</p> <p><b>態度の観点:</b> 自分の見解を述べることによりディスカッション能力を養う。</p> <p><b>技能・表現の観点:</b> プレゼンテーションを行うことによって自己の歴史解釈を表現する力を身につける。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
授業出席、プレゼンテーション、レポートで評価する。プレゼンテーションでは資料を収集し分析する能力と説明能力を重視する。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
アメリカの全体像を知るのに役立ちます。					
<b>連絡先</b>					
携帯アドレス: kondo-jan@docomo.ne.jp					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	2011911014
<b>開設科目名</b>	西洋歴史文化論演習			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	~
<b>担当教員</b>	尼川 創二			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
受講生と相談した結果、授業概要を決める。					
<b>授業の一般目標</b>					
受講生と相談した結果、授業の一般目標を決める。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 院生として、おかしくない知識・理解を持つ。					
<b>思考・判断の観点:</b> 院生として、おかしくない思考・判断を持つ。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 院生として、おかしくない関心・意欲を持つ。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
現在はレポートを書かせることを考えている。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
人文学部4階409号室 amak@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
月14:10 - 16:10					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	2011912001
<b>開設科目名</b>	現代社会変動論			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	~
<b>担当教員</b>	小谷 典子			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
個人と社会とを連結する「生活構造」に視点を置いて、戦後日本の地域社会の変動と現状を具体的に分析していくとともに、現代都市の諸問題を解明する。					
<b>授業の一般目標</b>					
自分が住んでいる地域社会を生活構造の視点から現状分析していき、どのような地域問題をかかえているかを考える					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 生活者として生活から社会理解する					
<b>思考・判断の観点:</b> 地域社会の課題に対していかに行動すべきかを考える					
<b>関心・意欲の観点:</b> 身近な地域社会の課題について関心を持つ					
<b>態度の観点:</b> 身の回りの出来事に対して好奇心を持つ					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
授業中に実施する小レポート、出席と期末試験で総合的に評価する					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
5236					
<b>オフィスアワー</b>					
月曜日 14時 15時					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	2011912002
<b>開設科目名</b>	現代社会変動論			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	~
<b>担当教員</b>	横田 尚俊			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>「阪神淡路大震災」のもとで生じた人の生や生活、地域社会等の崩壊の中で、どのように人は自立していくのであろうか。苦しみ(pathos)や受難の中で「弱い存在」者の自立と新たな人間の共同を模索する実践思想について考える。</p> <p>現代社会における生存の痛み suffering の問題を、(受難・苦痛と自立)、(自立と支援)・人間の他者に対する(相克と共同存在)を論じ、新たな「市民社会」を卓望する。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1)現代社会を苦しみ(pathos)、生存の痛み suffering という観点や視点で捉えることを学ぶ。</li> <li>2)現代に多く生起する諸問題への実践者や観察者のテーマや課題の設定の仕方を学ぶ。</li> <li>3)テキストから、現代的テーマを学ぶ。</li> </ol>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>出席30%</p> <p>授業時間内に提出するリアクション・ペーパー30%</p> <p>最後の授業でのテスト40%</p>					
<b>教科書</b>					
銀河鉄道の夜 / 宮沢賢治:角川書店(文庫), 1996					
<b>参考書</b>					
<p>ボランティアが社会を変える - 支え合いの実践知 / 似田貝香門編:関西看護出版, 2007</p> <p>自立支援の実践知 - 阪神・淡路大震災と共同・市民社会 / 似田貝香門編:東信堂, 2008</p>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	2011912003
<b>開設科目名</b>	地域社会計画論			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	~
<b>担当教員</b>	横田 尚俊			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
地震、噴火、風水害、大火災といった災害が社会を襲った場合、人々や集団・組織はどのように対応するのか。災害情報の収集・伝達はどのように行われるのか。災害は地域社会にどのような影響を及ぼすのか。この授業では、これら災害の社会過程をめぐるテーマに検討を加えとともに、災害社会学の基本的な視座や研究枠組みについて説明する。					
<b>授業の一般目標</b>					
1 災害社会学の基本的視座や研究方法を理解する。 2 災害の特質を現代社会の構造・変動との関連で捉え、災害に強い社会をどう構築していくかという課題について考える。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
定期試験 50% 出席 40% 小レポート・授業への参加度 10%					
<b>教科書</b>					
災害社会学入門 / 大矢根淳ほか: 弘文堂, 2007					
<b>参考書</b>					
平成20年版 防災白書 / 国土交通省: ぎょうせい, 2008 復興コミュニティ論入門 / 浦野正樹ほか: 弘文堂, 2007 防災の社会学 / 吉原直樹ほか: 東信堂, 2009 都市防災 / 吉井博明: 講談社, 1996					
<b>メッセージ</b>					
時間的に余裕があれば、テーマに関連するビデオ映像なども積極的に利用したい。					
<b>連絡先</b>					
メール・アドレス n.y@yamaguchi-u.ac.jp 研究室 人文棟3階307室					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	2011912004
<b>開設科目名</b>	現代社会意識調査論			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	~
<b>担当教員</b>	辻 正二			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>我が国は、1994年に高齢化率14%を超え、高齢社会に突入した。この高齢化は、今後もますます進行し、我が国の社会全体に大きな影響を及ぼしつつある。現在の我が国の深刻な社会問題(産業の空洞化、犯罪の凶悪化など)の中には国際化や情報化といった別の要因も関係しているが、高齢化の要因も無視できない。ところが、高齢化については、福祉や社会保障制度などに関しては論議されているが、高齢社会全体についてはあまり論議されていないのが実情である。この講義では、現在に高齢者が抱えている問題やこれまであまり触れられなかったエイジズム(老人差別)、高齢者と時間、生涯現役社会の構築といったことについて触れながら、社会老年学の知識を深めることを目指している。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>1)高齢化がもたらす意味とその社会心理学的諸問題についての知識を身につける。  2)高齢化社会の問題への対応を考え、それへの適切なあり方を考える態度を学ぶ。  3)生涯現役に向けての諸方策を捉え、あるべき方向性を考える。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
高齢社会の抱えている課題とその解決法に関して知識・理解力、想像力がどの程度あるかを問いたいと思います。					
<b>教科書</b>					
エイジングの社会心理学 / 辻正二・船津衛:北樹出版,2003					
<b>参考書</b>					
高齢者ラベリングの社会学 / 辻正二:恒星社厚生閣,2000					
高齢社会白書 / 内閣府,2008					
<b>メッセージ</b>					
授業は、テキストと資料を使って進行します。講義の前にテキストは必ず読んでおいてください。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					



<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	2011912005
<b>開設科目名</b>	現代コミュニケーション論			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	~
<b>担当教員</b>	高橋 征仁			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>現在、青少年における「規範意識の低下」が声高に叫ばれている。しかし、この指摘は、はたして本当だろうか？この授業では、規範をめぐるコミュニケーションや道徳意識の形成プロセスに焦点を当てながら、社会と個人のダイナミックな関係について考察を深めていく。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 古典的コミュニケーション・モデル(モノ・メタファー)の限界を認識する。</li> <li>2. メディアの基本機能と新しいコミュニケーション論の基礎を検討する。</li> <li>3. 道徳意識の生成と変容に関して、新しいコミュニケーション論の視点から再構築を行う。</li> </ol>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
毎週提出する授業課題レポート4割、学期末の課題レポート6割で評価する。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
コミュニケーションに対する甘い幻想も、シニカルな諦めも、ともに打ち砕きながら、現実のコミュニケーション・プロセスについての理解を深めていきましょう。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					
金曜日 5・6 時限					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	2011912006
<b>開設科目名</b>	比較社会生活誌論			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	~
<b>担当教員</b>	坪郷 英彦			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>民衆文化のさまざまな現象のなかでも信仰・心意・芸能の問題に焦点をすえて紹介する予定である。また、既成宗教の枠組では理解できない民衆宗教(民間信仰)を研究という視点からと宗教実践者の立場から、民衆文化(民俗文化)がいかなる意味をもっているかを全国各地とりわけ瀬戸内周辺の事例をとりあげつつ考えてみる。</p> <p>前期集中講義を予定。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>日本人に培われてきた民衆の文化を理解するために、日本の民俗の事例(とくに民衆宗教・新興宗教)について基礎的な知識を紹介する。また民衆の文化を研究してきた民族学、民俗学の思考法についても歴史学とりわけ社会史の延長線上でふれたい。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>評価法については集中授業の最初に説明する。</p>					
<b>教科書</b>					
<p>近世のアウトローと周縁社会 / 西海賢二: 臨川書店</p>					
<b>参考書</b>					
<p>近世の遊行聖と木食観正 / 西海賢二: 吉川弘文館  江戸の漂泊聖 / 西海賢二: 吉川弘文館  生活のなかの行道 / 西海賢二: ベネッセコーポレーション</p>					
<b>メッセージ</b>					
<p>瀬戸内文化を世界に皆さんと発信しましょう。</p>					
<b>連絡先</b>					
<p>学部内担当教員 坪郷 E-mail &lt;hide.tsu@yamaguchi-u.ac.jp&gt; 電話 5239 研究室 213</p>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	2011912007
<b>開設科目名</b>	社会生活伝承論			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	~
<b>担当教員</b>	湯川 洋司			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
社会生活伝承論は、現代社会の諸問題からテーマを拾い、民俗学の手法を用いて検討することをめざしています。この授業では、農山漁村の近代史と近代化の進展について、民俗を手がかりに具体的に検討することを通して、現代日本社会の歩み方を点検し、今後を考えます。					
<b>授業の一般目標</b>					
日本の地方生活の生活と歴史を日本全体の近代化過程の中に位置付けられるようになる。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 地方農山漁村の歩みの特色を説明できる。					
<b>思考・判断の観点:</b> 民俗と近代史とがかわる事例をあげて、そのかわりについて説明できる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
毎回実施する小テストと、授業外レポート、期末試験(レポート)により、評価する。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
山口県史資料編民俗2 暮らしと環境 / 湯川洋司ほか: 山口県, 2006					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
yukawa@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
研究室: 人文学部棟2階210室, いつでもおいでください。					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	2011912008
<b>開設科目名</b>	造形伝承論			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	~
<b>担当教員</b>	坪郷 英彦			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
人間の暮らしをものの視点から考察する。文化人類学の物質文化研究、民俗学の民具研究の諸成果を示し、さらに現代の視点からの検討を加えながら授業を進めていきます。 今年のテーマとしては「住まい」を取りあげる。					
<b>授業の一般目標</b>					
人類が作り出した様々なものを社会的、システムの、技術的に読み解く力を養う。人類の基本的な自然に対する対応の仕方を理解し、現在の地球環境問題に接する視点と態度を養う。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 基本的理論、用語の説明ができる。					
<b>思考・判断の観点:</b> 日常を機能・システムの視点から読み解くことができる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 技術文化の表層と本質的な部分を読み分けることができる。					
<b>態度の観点:</b> 日常のもの・ことに新たな視点で接することができる。					
<b>技能・表現の観点:</b> 自分の考えを正確に論述できる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
出席と期末レポート及び数度の授業内レポートにより評価を行います。特に出席と期末レポートを重視します。 出席が70%に満たない場合は評価の対象になりません。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
技術など専門的な言葉が出てきますが、できるだけ視覚情報を使って理解を助けます。					
<b>連絡先</b>					
Email: hide.tsu@yamaguchi-u.ac.jp 電話 5239 、研究室 213					
<b>オフィスアワー</b>					
木曜日 12:00 ~ 14:00					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	2011912009
<b>開設科目名</b>	現代国際社会論			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	~
<b>担当教員</b>	山本 真弓			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
東アジア漢字文化圏における翻訳と異文化交流について考える。					
<b>授業の一般目標</b>					
日本語とヨーロッパ語のあいだの翻訳とは異なる課題を抱える、漢字語の翻訳(日本語と韓国語、日本語と中国語)の困難を明らかにすること。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
出席と授業内レポート					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	2011912010
<b>開設科目名</b>	現代社会分析論演習			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	~
<b>担当教員</b>	小谷 典子			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
修士論文作成を目指し、社会学の理論や研究方法を学び、現代社会が抱える諸問題について、テキストに基づき、各自レポートし、それぞれの研究課題について議論しながら、現代社会に関する関心を深める。					
<b>授業の一般目標</b>					
修士論文作成を目指し、現代社会の構造と変動を、都市社会に視点を置いて理解する。そこから派生する関心ある社会問題を見つけ出し、社会的な分析方法を身につける					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 現代社会の研究に関する知識と理解を深める					
<b>思考・判断の観点:</b> 現代社会の現状を判断する					
<b>関心・意欲の観点:</b> 現代社会に関する関心を深める					
研究テーマを明確化する					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
出席、課題報告、最終レポートで総合的に評価する					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
5236					
<b>オフィスアワー</b>					
月曜日 14時 15時					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	2011912011
<b>開設科目名</b>	現代社会分析論演習			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	~
<b>担当教員</b>	横田 尚俊			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>受講生が自らの研究テーマを深め、修士論文を作成できるよう、指導を行う。したがって、受講生自身による研究成果の報告と参加者全員による討論によって授業は進められていく。但し、受講生の人数と状況によっては、地域社会学または現代社会論のテキストを選び、各自の報告と並行する形で輪読し、討論を行うことも考えている。その場合、どのような文献をテキストに選ぶかは、受講生と相談して決定する(以下の「教科書」、「授業計画」には、現時点で予定しているテキスト名、テキストの内容を掲載しておく)。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 修士論文の研究課題を具体化し、必要な文献、資料、データ等を渉猟して、受講生が自らの研究を深められるようにする。</li> <li>2 受講生各自の研究課題に基づいて、修士論文の作成に着手できるようにする。</li> </ol>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
出席 40%					
報告・授業への参加度 40%					
課題レポート 20%					
<b>教科書</b>					
防災の社会学 / 吉原直樹ほか: 東信堂, 2009					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
初回の授業で、授業の進め方について説明するので、必ず初回の授業に出席すること。					
<b>連絡先</b>					
メール・アドレス n.y@yamaguchi-u.ac.jp					
研究室 人文棟3階307室					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	2011912012
<b>開設科目名</b>	現代社会分析論演習			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	~
<b>担当教員</b>	辻 正二			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
毎回1人づつレポートを発表する形態の授業である。自分の大学院における研究テーマを発展するように指導する授業である。					
<b>授業の一般目標</b>					
(1)レポートの課題を通して専門的な知識を学ぶとともに解釈の仕方やプレゼンテーションの方法について学ぶ。 (2)専門的な知識を深めるとともに議論に参加し、自分の見解を述べる姿勢を身につける。 (3)修士論文作成に向けての研究指導をする。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
毎回の研究レポートの発表(理解度、完成度など)と定期試験であるレポートを総合的に判断して評価する。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					



<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	2011912013
<b>開設科目名</b>	現代社会分析論演習			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	~
<b>担当教員</b>	高橋 征仁			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
大学院生を対象とする演習において、青年文化の形成と変容をめぐるアプローチについて検討する。					
<b>授業の一般目標</b>					
1. 日本の青年文化の形成と変容を概観する。 2. 青年現象の背後にある社会過程やメカニズムについて考察する。 3. 計量的分析の意義と限界について学ぶ。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
学期末のレポート作成をもとに評価する					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					
金曜日 5・6 時限					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	2011912014
<b>開設科目名</b>	現代社会分析論演習			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	~
<b>担当教員</b>	湯川 洋司			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
民俗学上の諸問題について、受講者の希望を聞きつつ、文献講読と討論により理解を深める。					
<b>授業の一般目標</b>					
民俗学上の諸問題について、民俗学的洞察力を養う。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
授業への取組姿勢と授業終了後に作成提出するレポートの評価による。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
yukawa@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	2011912015
<b>開設科目名</b>	現代社会分析論演習			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	~
<b>担当教員</b>	坪郷 英彦			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
物質文化研究の基礎理論と研究の現状を理解する。					
<b>授業の一般目標</b>					
主要な論文の講読を中心にして、理論と研究方法についての理解を深める。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
自主的な研究態度と期末のレポートによって評価する。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
主体的な授業参加を期待します。並行して民俗調査も行います。					
<b>連絡先</b>					
Email hide.tsu@yamaguchi-u.ac.jp 電話 5239 研究室 213					
<b>オフィスアワー</b>					
木曜日 12:00 ~ 14:00					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	2011912016
<b>開設科目名</b>	現代社会分析論演習			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	~
<b>担当教員</b>	山本 真弓			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
インド共和国ベンガル地方とバングラデシュ共和国にまたがるベンガル地方が、近代にふたつの国家に分かれた経緯と、現在のベンガル・アイデンティティーのありようを考察する。					
<b>授業の一般目標</b>					
言語文化が共通する地域に国境線が引かれる経緯、そのことの意味、その影響などを理解する。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 言語と宗教と国家の関係を理解する。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 予習復習をきちんと行なう。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
出席					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	2011913001
<b>開設科目名</b>	原始文化論			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	~
<b>担当教員</b>	中村 友博			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
縄文・弥生過渡期の土器研究;縄文土器がどのように弥生土器にとって変わったのかを、東北地方から九州地方まで具体的な出土品を検討しながら講義する。今回は、縄文晩期の亀ヶ岡式土器を山内清男の大洞体系を使用して検討するところから始める。					
<b>授業の一般目標</b>					
日本考古学で発達した土器型式学を具体的に学習する。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 専門用語の定義を承知している。					
<b>思考・判断の観点:</b> 体系的に理解するように努める。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 学説の効力に関心を向ける。					
<b>態度の観点:</b> 研究に興味をもつことができる。					
<b>技能・表現の観点:</b> 考古資料の表現方法に関心をもつ。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
期末に専門的なレポートを提出し、その内容によって判定する。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
tomo@yamaguchi-u.ac.jp、研究室;人文学部3階					
<b>オフィスアワー</b>					
月曜日;16時10分~17時40分。					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	2011913002
<b>開設科目名</b>	原始文化論			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	~
<b>担当教員</b>	中村 友博			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
動物の考古学;遺跡出土の動物遺体から、遺跡を残した人々の生活環境、狩猟活動や家畜利用技術、動物にかかわる文化について考察する。					
<b>授業の一般目標</b>					
考古資料に基づいて人間の動物利用の歴史を考える。特に狩猟・採集社会から農耕社会への移行の実相や、日本人の殺生、肉食の忌避、賤視観の誕生とその変遷について理解を深める。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 動物考古学に対する基礎的知識を習得し、動物遺存体から人間の文化にかかわる情報をいかに引き出すかという方法の理解につとめたい。					
<b>思考・判断の観点:</b> 「日本人は古代仏教に帰依して以降、幕末・明治に西洋文化の影響を受けるまで肉食を忌避し続けた」という主として文献史をもとにした食生活史観を、動物遺存体の分析によって再検討し、各自の評価を問いたい。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 旧来の考古学の枠組みに対して、新しい枠組みへの興味の示し方を評価する。					
<b>態度の観点:</b> 講義中、理解を見る質問票、小レポートを課し、積極的かかわりを評価する。					
<b>技能・表現の観点:</b> レポートの章立て、他者に情報を伝える表現技術、論理構造などを重視する。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
講義中の質問票、不定期のレポートにより、出席点にかえる。集中講義終了後にレポートを提出。					
<b>教科書</b>					
環境考古学への招待(岩波新書930)/松井 章:岩波書店,2005					
<b>参考書</b>					
環境考古学マニュアル/松井 章:同成社,2003					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
国立文化財機構 奈良文化財研究所 埋蔵文化財センター(奈良市二条町2-9-1)					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	2011913003
<b>開設科目名</b>	原始文化論演習			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	~
<b>担当教員</b>	中村 友博			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
考古学の専門的な主題について、模擬的に研究を展開しながら進行する。					
<b>授業の一般目標</b>					
考古学の研究に必要な資質を習得する。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 専門的な文献が検索でき、読めるようになる。					
<b>思考・判断の観点:</b> 専門的な研究の意味づけができるようになる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 興味をもって専門的な研究が遂行できる。					
<b>態度の観点:</b> 研究に集中して向かうことができる。					
<b>技能・表現の観点:</b> プレゼンテーションの技術を習得している。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
発表の内容を評価する。また遺物の見方では、実測図の完成度を評価する。従って、期末試験は実施しない。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
tomo@yamaguchi-u.ac.jp、研究室:人文学部3階					
<b>オフィスアワー</b>					
月曜日;16時10分~17時40分。					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	2011913004
<b>開設科目名</b>	原始文化論演習			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	村田 裕一			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
受講生の研究能力を高める訓練を目的とする演習である。受講生自らが設定したテーマにそって研究を進め成果を発表する。授業では、受講生の研究の進捗状況を確認するとともに、考古学的方法論の指導、具体的な資料操作方法についての指導を行う。					
<b>授業の一般目標</b>					
1. 応用的な考古資料の操作方法を習得する。 2. 事例研究を行い、発表、討議することで、プレゼンテーションの技術を高めるとともに、いわゆるディベートの能力を訓練する。 3. 自らが設定した研究テーマを掘り下げ、修士論文につながる研究成果を導き出す。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>技能・表現の観点:</b> A. 考古資料に対して、より効果的な資料操作を行うことができる。 B. 資料操作の過程、結果を図版・分析表などを駆使して説明できる。 C. 資料操作の結果に基づいて論旨を構築・発表できる。 D. 発表に際しての討議で、的確な受け答えができる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
受講者の発表(プレゼン)・授業内での制作作品 100%。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
研究を進展させ、学外の調査研究機関に資料調査に行く機会、あるいは学術研究会等で情報収集を行う機会を多く作ってください。研究は一朝一夕に進展するものではないので、各自の日頃の取り組みが重要です。地道に努力し、多彩な研究分野に興味関心を持って研究を進めてください。研究発表は十分な準備を行い、全力で行ってください。可能であれば、発表者は、パソコンによるプレゼンテーションを取り入れた発表を1回以上行ってください。					
<b>連絡先</b>					
E-mail:h-murata@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
水曜日7・8時限					



<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	2011913005
<b>開設科目名</b>	芸術論			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	田中 均			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>「ツアー・パフォーマンス」研究</p> <p>「ツアー・パフォーマンス」とは、演劇集団PortBが2006年から行っている新しい形態の演劇です。観客は客席に座って舞台を見るのではなく、さまざまな演出が仕掛けられた都市空間の中を移動する、というのがその基本的な特徴です。</p> <p>この授業では「ツアー・パフォーマンス」についていくつかの側面から美学的に分析します。</p> <p>また、現代演劇についての理解を深めるため、山口情報芸術センター(YCAM)で滞り制作中のアーティストによるレクチャー・ワークショップを予定しています。</p> <p>注意:この科目は「美学」の授業であり、「美術史」の授業ではありません。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
「ツアー・パフォーマンス」の基本的な特徴を理解する。					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b>「ツアー・パフォーマンス」のいくつかの特徴を挙げることができる。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b>「ツアー・パフォーマンス」と他のいくつかの芸術ジャンルとの違いを判断できる。</p> <p><b>技能・表現の観点:</b>「ツアー・パフォーマンス」について自らの思考を表現することができる。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>中間試験を受験すること、学期末のレポート(下記参照)を提出すること、授業に50%以上出席することが単位認定の必要条件です。</p> <p>レポート題目(予定):美学・芸術学に関する書物、あるいは芸術現象の一つ以上とりあげ、簡潔に紹介した上で、問題提起・批判・補足など、独自の考察を加えること。ただし、その考察を、授業において取りあげた理論一つ以上と関連づけること。</p> <p>分量:2000字程度</p> <p>注意:レポートは「感想文」や大学入試の「小論文」とは異なります。授業用のハンドアウトだけを読んで思いついたことを書くのではなく、論じたい対象について、自ら本・論文などの資料にあたって調べ、それをもとに論理的・批判的な議論を展開することが必要です。</p> <p>(レポートの添削を希望する場合は、最終週の授業の前後(詳しくは授業中に指定します)までに提出して下さい。一週間以内に添削して返却しますので、修正のうえ、再提出して下さい)</p>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
tanakahi@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
木曜 12:50～14:20(事前に連絡して下さい)					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	2011913006
<b>開設科目名</b>	芸術論			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	~
<b>担当教員</b>	藤川 哲			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
この講義では、国内外で開催されている国際美術展の現況について解説します。デジタル画像やビデオの上映を交えながら国際美術展の歴史、代表的な国際美術展を紹介したのち、特に1990年代以降の地球規模化をめぐる今後の課題について、ヨーロッパとアジアとの対比の中で考察します。					
<b>授業の一般目標</b>					
一、国際美術展の現況について理解する。 二、国際美術展の歴史について理解する。 三、地球時代の現代美術に対する問題意識をもつ。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 代表的な国際美術展について説明できる。					
<b>思考・判断の観点:</b> 国際美術展の地球規模化について肯定的な側面と課題とを指摘できる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 自ら国際美術展を見に出かける。あるいは、インターネット上の関連サイト、新聞、雑誌で国際美術展に関する情報を収集する。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
期末試験の成績を基礎として、中間レポートの提出の有無や出席点などを加えて総合的に評価します。詳しくは講義最初のオリエンテーションで説明します。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
ヴェネツィアと日本：美術をめぐる交流 / 石井元章:ブリュッケ, 1999 12人の挑戦 大観から日比野まで / 水戸芸術館現代美術センター企画・監修: 茨城新聞社, 2002 ヴェネチア・ビエンナーレ 日本参加の40年 / 国際交流基金, 毎日新聞社編: 国際交流基金, 1995 アートマネジメント / 伊東正伸ほか: 武蔵野美術大学出版局, 2003 記録集 横浜会議 2004「なぜ、国際展か?」 / 加藤慶ほか編集: BankART1929, 2005					
<b>メッセージ</b>					
特殊講義ですので、普通講義よりも専門的な内容になります。国際美術展は講師が専攻している研究課題です。最新の知見をご紹介しますが、その反面講義中に出てくる言葉は耳慣れないものが増えるでしょう。今年度は、2008年に調査したシドニーや光州の国際美術展を紹介します。					
<b>連絡先</b>					
fujikawa@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
人文学部の研究室 417 にて水曜日午後					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	2011913007
<b>開設科目名</b>	芸術論演習			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	~
<b>担当教員</b>	藤川 哲			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
各自の研究に関係のある論文を紹介してもらいます。レジュメ作成のこと。外国語文献の場合は、訳文作成をお願いします。授業は、発表内容に対する討議を中心とします。					
<b>授業の一般目標</b>					
専門的かつ横断的な視野と思考力を獲得する。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 自らの研究課題の解明に必要な専門的知識を習得する。					
<b>思考・判断の観点:</b> 自らの研究課題をめぐって幅広い視野から多面的に考え抜く。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 適切な課題設定を行い、解決に向けた最適な筋道を構想した上で、それを着実に実現できる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
発表内容と期末レポートによって評価します。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
専門的な知識を身につけましょう。					
<b>連絡先</b>					
fujikawa@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
人文学部の研究室 417 にて水曜日午後					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	2011913008
<b>開設科目名</b>	芸術論演習			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	~
<b>担当教員</b>	田中 均			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
この授業では、美学の基本的文献として、カント『判断力批判』を原語で講読します(英訳・仏訳も適宜参照します)。					
<b>授業の一般目標</b>					
原語で文献を読むことの意義について考える。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> カントの美学理論のいくつかの論点を説明することができる。					
<b>思考・判断の観点:</b> カントとその他のいくつかの美学理論の違いを判断できる。					
<b>技能・表現の観点:</b> 美学の基本的な問題について自らの思考を表現することができる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
受講者の報告内容に従って採点します。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
tanakahi@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
木曜 12:50 ~ 14:20(事前に連絡して下さい)					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	2011920001
<b>開設科目名</b>	日本語論			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	~
<b>担当教員</b>	林 伸一			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
授業の概要					
大学院生にとって、修士論文の作成のヒントになるような授業になるようにする。					
授業の一般目標					
大学院生として、自ら構成的グループ・エンカウンターの実施者として、リーダーシップを発揮できるようにする。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点:					
1、構成的グループ・エンカウンターと類似の活動との異同について説明できる。					
2、人間関係づくり、リレーションづくりのしかけとしくみを理解する。					
3、日本語教育とカウンセリングの接点について理解を深める。					
思考・判断の観点:					
オリジナリティのある思考と客観性のある判断					
関心・意欲の観点:					
自分の研究テーマに関する関心と意欲を高める					
態度の観点:					
調査研究への積極的な態度を示す					
技能・表現の観点:					
1、他者の立場を尊重しながらも、説得力のある自己主張をする。					
2、簡潔に自分の意見を述べ、書けるようにする。					
3、質問力を身につけ、日本語教授法につながる技法を身につける。					
授業計画(概要・授業の目標(予定))					
参加体験型の授業を通して、プレゼンテーションができるようにする					
成績評価方法(総合)					
出席とレポートを重視し、テストはしない。					
成績評価方法(観点別)					
知識・理解 思考・判断 関心・意欲 態度 技能・表現 その他 評価割合(%) JABEE 収集資料					
定期試験(中間・期末試験)	評価に加えず				
小テスト・授業内レポート	20%				
宿題・授業外レポート	20%				
授業態度・授業への参加度	20%				
受講者の発表(プレゼン)・授業内での制作作品	20%				
演習	10%				
出席	10%				
その他	評価に加えず				
合計	100% 0%				
<b>授業の一般目標</b>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					

<b>教科書</b>
<b>参考書</b>
<b>メッセージ</b> メッセージ 日本語教師志望者、留学生歓迎
<b>連絡先</b> E-mail: hayashix@yamaguchi-u.ac.jp 携帯: 090 - 6415 - 8203
<b>オフィスアワー</b> 連絡先・オフィスアワー 人文学部2階210-2号室(研究室), オフィスアワー木曜: 11時～12時

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	2011920002
<b>開設科目名</b>	日本語論			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	~
<b>担当教員</b>	添田 建治郎			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
日本語アクセントの機能、特徴、その成立と変遷などについて論述する。					
<b>授業の一般目標</b>					
日本語アクセントの意義について理解を深める。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 日本語アクセントの機能、特徴、その成立と変遷などについての理解を深める。					
<b>思考・判断の観点:</b> 日本語アクセントの機能、特徴、その成立と変遷などの知見をもとにそれに関わる疑問、問題を考え、解決をはかる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 講義内容に対する疑問、意見を質問カードに寄せるとともに、教員と意見交換するなかでわいてきた疑問について自身で考える。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
試験が60%、出席と質問カードの内容(授業内レポートに相当するものです)により、授業内容についての理解度をはかります。					
<b>教科書</b>					
愉快的な日本語講座 / 添田建治郎:小学館, 2005					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
0847-34-1961					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	2011920003
<b>開設科目名</b>	日本語論			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	~
<b>担当教員</b>	磯部 佳宏			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
~ 文法論と文法学史 ~ 近世以前の文法学史を概観するとともに、近代以降の代表的な文法論を紹介しながら、日本語の文法研究史と、その特徴について考察する。					
<b>授業の一般目標</b>					
日本語の文法論と文法学史に関する基礎知識を身に付けるとともに、日本語の文法研究に関する諸問題について考える。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 日本語の文法論と文法学史に関する基本的な知識が身に付いているかを判断する。					
<b>思考・判断の観点:</b> 日本語の文法論と文法学史に関する基本的な知識を使って、思考力を判断する。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 授業に対する取り組みを判断する。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
期末試験を主たる評価の対象とする。 毎回、授業時に用紙を配布し、出席の確認を兼ねて、指示する内容について記入してもらう。					
<b>教科書</b>					
国語文法論 / 渡辺実: 笠間書院, 1974					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					



<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	2011920004
<b>開設科目名</b>	日本語論演習			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	~
<b>担当教員</b>	林 伸一			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
授業の概要					
主に日本語教育、日本語教授法関連の学術論文、実践報告を材料に大学院生レベルの演習をおこなう。特に修士論文の作成に直結するような内容の検討を相互に実施する。					
<b>授業の一般目標</b>					
授業の一般目標					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1、学術論文、実践報告を批判的に読む。</li> <li>2、修士論文のテーマを明確にしなが、その目的と意義を考える。</li> <li>3、修士論文の研究手法と手順について検討する。</li> <li>4、修士論文のデータの取り方、処理のしかたを検討する。</li> </ol>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 1、論文とエッセーの違い					
2、学術論文と報告書の違い					
3、先行研究とオリジナリティの関係					
4、論文と教科書風記述の問題					
<b>思考・判断の観点:</b> 1、論旨の一貫性					
2、放射思考としてのマインドマップの活用					
3、一般論に対して適切な具体例の提示					
<b>関心・意欲の観点:</b> 1、テーマに関する関心と意欲					
2、研究方法に関する関心と意欲					
3、表現方法に関する関心と意欲					
<b>態度の観点:</b> 1、積極的に検討に参加する					
2、すすんで研究内容を発表する					
<b>技能・表現の観点:</b> 1、わかりやすい図表を提示する					
2、わかりやすい図表の説明、分析をする					
3、独創性のある考察ができる					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
成績評価方法(総合)					
出席と論文発表・授業内小レポート(質問・感想カード)を重視し、テストはしない。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
E-mail: hayashix@yamaguchi-u.ac.jp					
携帯: 090 - 6145 - 8203					

**オフィスアワー**

人文学部2階210-2号室 オフィスアワー:木曜11時-12時

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	2011920005
<b>開設科目名</b>	日本語論演習			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	~
<b>担当教員</b>	磯部 佳宏			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>~ 日本語の文法・語彙・待遇表現(1) ~</p> <p>日本語の文法・語彙・待遇表現に関して、受講者は研究テーマを定め、調査を行い、資料を作成して発表を行う。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
日本語の文法・語彙・待遇表現に関する基本的な知識を身に付け、修士論文作成に向けて、研究テーマを定め、調査を行い、資料を作成して発表を行う。					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b> 問題点の設定と取り組み。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b> 発表資料のまとめ方。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b> 質疑応答への参加度。</p> <p><b>技能・表現の観点:</b> 口頭発表における技術・表現。</p> <p>資料・参考文献の取り扱い方。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>授業時の口頭発表。</p> <p>質疑応答への参加度。</p> <p>期末レポート。</p>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	2011920006
<b>開設科目名</b>	日本文学論			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	~
<b>担当教員</b>	森野 正弘			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
中古文学作品を対象として、研究史のうえで営まれてきた様々な読解を紹介しつつ、そこで提起された諸問題について検討を加える。					
<b>授業の一般目標</b>					
中古文学作品を研究するうえで必要な知識の習得、及び理解力・分析力・論理的思考力を養成する。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 中古文学作品に書かれた内容を正確に読み取るための知識を得ることができる。					
<b>思考・判断の観点:</b> 中古文学作品に書かれた内容や研究論文を通じて多面的な物の見方・考え方ができるようになる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
期末試験による。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
新編日本古典文学全集『源氏物語』(全6冊) / 阿部陞火生ほか: 小学館, 1995					
源氏物語事典 / 林田孝和ほか: 大和書房, 2002					
源氏物語の鑑賞と基礎知識(全43冊) / 鈴木一雄 監修: 至文堂, 1998					
人物で読む源氏物語(全20冊) / 上原作和 編集: 勉誠出版, 2005					
角川文庫ソフィア『源氏物語・付現代語訳』(全10冊) / 玉上琢彌: 角川書店, 1998					
<b>メッセージ</b>					
出席状況 80%未満の者は欠格とします。					
<b>連絡先</b>					
morino@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
水曜日 5・6 時限					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	2011920007
<b>開設科目名</b>	日本文学論			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	~
<b>担当教員</b>	尾崎 千佳			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
近世文学研究のためのアプローチ法について講述する。文学の周辺にある資料群へも目配りしつつ、適宜演習形式も取り入れながら、文献収集の方法・文献解読の技術・書誌的基礎知識の習得を指導する。					
<b>授業の一般目標</b>					
近世文学諸作品の文学史的な位置づけを得るための方法論を習得する。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 1. 近世文学の作品を原本によりの確に解読することができる。 2. 書誌調査の基礎を習得する。					
<b>思考・判断の観点:</b> 1. 近世文学の作品を原本によりの確に解読することができる。 2. 書誌情報を作品の理解に利用することができる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
各自が採録した調査カードや授業時の質疑応答により評価する。試験は行わない。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
くずし字用例辞典新装普及版 / 児玉幸多: 東京堂出版, 1993 日本古典書誌学総説 / 藤井隆: 和泉書院, 1991					
<b>メッセージ</b>					
参加者各自、鉛筆(シャープペンシル不可)数本・メジャー(ビニルもしくは布製)・電卓を、第2週目の授業時までまでに用意すること。					
<b>連絡先</b>					
研究室: 人文 508 電話: 083-933-5257 E-mail: ozaki@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	2011920008
開設科目名	日本文学論			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	小野 美典			区分	
<b>授業の概要</b>					
<p>昨年に引き続き『平家物語』を取り上げて、その文学的特質を解説する。半期という短い期間なので、著名な章段を取り上げて、その読解をもとに『平家物語』の文学的特質を考察していくことにする。また、本文に係る資料も可能な限り取り上げて、中世の文学研究に必要な基礎資料に関する解説もあわせて行いたい。取り上げる章段は、以下の予定。(鱈 富士川、経世都落)</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
『平家物語』の特質を知ることが第一の目標とする。また、中世文学研究に必要な基礎知識の獲得も第二の目標とする。					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点：</b> 『平家物語』の特質に関する理解を深める。  『平家物語』研究の現状と課題について理解を深める。  中世文学研究の基礎資料に関する知識を深める。</p> <p><b>思考・判断の観点：</b> 『平家物語』の本文を読み解く。  歴史資料を読み解く。</p> <p><b>関心・意欲の観点：</b> 『平家物語』に関する興味を深める。  同時代の他の資料への関心を深める。</p> <p><b>態度の観点：</b> 注釈の施されていない資料を積極的に読むとする。</p> <p><b>技能・表現の観点：</b> 自分の調査・考察したことを的確に文章で表現する。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
レポートによって評価する。なお、出席は3分の2以上出席していることが評価の前提となる。その出席条件を満たした者に関して、レポート内容で成績評価を行う。出席状況を点数化して評価に加点することはしない。なお、講義中の授業への参加態度も、若干の考慮に入れる。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
半期という短い期間ですが、『平家物語』の世界に興味を持ってもらえたら幸いです。お互いに楽しく授業を進めましょう。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	2011920009
<b>開設科目名</b>	日本文学論演習			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	~
<b>担当教員</b>	平野 芳信			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
本年度は受講生と相談の上、内容を決定する。					
<b>授業の一般目標</b>					
できれば、一人の作家がどのようにして、自己の個人様式を確立させていくかという問題を検証したい。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
授業態度・授業への参加度 30%					
受講者の発表(プレゼン)・授業内での制作作品 30%					
演習 30%					
出席 10%					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
個人研究室 933 - 5262 y-hirano@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
追って、指示します。					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	2011920010
<b>開設科目名</b>	日本文学論演習			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	~
<b>担当教員</b>	森野 正弘			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
中古文学作品の研究					
<b>授業の一般目標</b>					
中古文学作品を研究するうえで必要な知識の習得、及び理解力・分析力・論理的思考力などを養成する。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 中古文学作品に書かれた内容を正確に読み取るための知識を得ることができる。					
<b>思考・判断の観点:</b> 中古文学作品に書かれた内容や研究論文を通じて多面的な物の見方・考え方ができるようになる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 自発的に中古文学作品を読み進め、関連する事項について調査・研究することができるようになる。					
<b>態度の観点:</b> 中古文学作品に提起されている問題を主体的に考え、自ら探究することができるようになる。					
<b>技能・表現の観点:</b> 考察した結果を文章や口頭で適切に表現できるようになる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
発表内容とレポートによる。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					
水曜日 5・6時限					



<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	2011920011
<b>開設科目名</b>	日本文学論演習			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	~
<b>担当教員</b>	尾崎 千佳			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
作品作家の選定・研究史の把握と整理・問題の設定について、各自の研究計画に即して指導する。					
<b>授業の一般目標</b>					
修士論文作成のための具体的な方法習得を目的とする。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 1. とりあげる作家や作品を選定することができる。					
2. 先行研究を収集し整理することができる。					
<b>思考・判断の観点:</b> 1. 研究史を把握し問題を提起することができる。					
2. 論文テーマをみずから設定することができる。					
<b>技能・表現の観点:</b> 1. 選定した作家や作品の指摘位置づけについて、適切に説明することができる。					
2. 研究史とその問題点について、適切に説明することができる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
授業中の口頭発表や提出レポートにより評価する。試験は行わない。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
研究室: 人文 508 電話: 083-933-5257 E-mail: ozaki@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	2011921001
<b>開設科目名</b>	中国語論			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	~
<b>担当教員</b>	更科 慎一			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>明清代の中国や同時代の周辺国において、漢語と漢語以外の言語の対音・対訳文献が多数作られた。これらの文献は、中国語学の研究資料として魅力の大きいものだが、対訳という性質上とつきづらいいこともまた事実である。本授業では、19世紀末の朝鮮で作られた漢語会話教科書『華音撮要』を取り上げ、その漢語の音韻・語彙・文法的特徴を分析してゆく。授業では朝鮮語を扱うが、受講者に朝鮮語の知識は必要ない。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>(1)19世紀末の朝鮮における漢語学習の実態について理解する。  (2)19世紀末の中国北方漢語の音韻、語彙、文法の特徴について理解する。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b>1.明清代中国や同時期の朝鮮における多言語学習の実態について、自身の研究の観点から説明できる。  2.近代から現代に到る漢語の変化について説明できる。  3.干渉や類推など、対音対訳資料に特有の非母語話者の言語現象について指摘できる。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b>1.非母語話者が記述した資料に基づいて言語を研究することの意味を十分に理解し、これを自身の研究と結びつけることができる。</p> <p><b>技能・表現の観点:</b>1.異体文字を一定の方式に基づいたローマ字に転写することができる。  2.韻書などを使って、漢字の音韻的地位を検索することができる。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
受講者の授業内発表をもとに成績評価を行う。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<p>人文研究棟516室  電話:083-933-5250</p>					
<b>オフィスアワー</b>					
月曜日 12:50-16:00					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	2011921002
<b>開設科目名</b>	中国語論			<b>単位</b>	2 単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	~
<b>担当教員</b>	富平 美波			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>授業のテーマは、「中国語の中古音について」。中国語の発音の歴史を一般に上古音 中古音 近代音 現代音と区分するが、その中で最も重要なのは中古音である。これは隋唐時代の中国語標準音を指すものである。中古音がなぜ重要かという、現代中国語方言の大部分はこの中古音を共通の祖先としそこから変化してきたものなので、現代の中国語方言を分類したり特徴を説明したりするのに中古音の知識は欠かせない。また日本語で用いられる漢字音も中古音と密接な関係があり、漢字音を体系的に理解するにも中古音の知識は欠かせない。この授業では、はじめにカールグレンの研究によって大まかな中古音の音価推定を紹介し、それと「普通話」を含むいくつかの主要な方言音を比較対照し、各地方言音と中古音との関係、および方言間の発音の相違・特徴を明らかにする。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 中国語古代音のなかで、最も重要な位置を占める中古音を声母・韻母に分けて理解する。また古代音の音価推定がどのように行われるかを、各種言語資料によって具体的に学ぶ。</li> <li>2) 古代音はピンインでなく音声記号で示されるので、その記号のよみ方についても勉強する。音声記号は、よみ方だけでなくじっさいに使えるようにもする。</li> <li>3) 南方の主要な方言(広東語・福建語など)の発音を学び、北京語(標準語)との違いの大きさを感じてもらう。</li> <li>4) 中古音を基として現代の主要な方言音を比較し、方言間の発音の相違と特徴を観察し、さらに進んで方言分類もできるようにする。</li> </ol>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b> 中古音を知ることによって、現代音との相違、あるいは現代までの発音の歴史を説明することができる。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b> 中古音の知識を基にして、歴史的観点からの方言特徴などについて意見を述べることができる。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b> 中国語の歴史だけでなく、方言の分類・分布に対しても興味や関心を高められる。</p> <p><b>態度の観点:</b> 中国の方言だけでなく、日本語で用いられる独特の日本漢字音についても積極的に考えることができる。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 授業の中で小テストを1回、授業の最後に試験を1回行う。</li> <li>2) 方言分類に関する授業内レポートを作成し、提出する。</li> <li>3) 以上を、下記の観点・割合で評価する。</li> <li>4) なお、出席が所定の回数に満たないものは、単位を与えない。</li> </ol>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<p>中国語語音史 中古音から現代音まで / 佐藤昭: 白帝社, 2002</p> <p>中国の諸言語 - 歴史と現況 / ラムゼイ: 大修館書店, 1990</p> <p>音韻のはなし - 中国音韻学の基本知識 / 李思敬: 光生館, 1987</p>					
<b>メッセージ</b>					
質問大歓迎。不明なこと、疑問のこと、なんでもかまいませんので、遠慮なく質問すること。					
<b>連絡先</b>					
a-satou@kitakyu-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	2011921003
<b>開設科目名</b>	中国語論演習			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	~
<b>担当教員</b>	富平 美波			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
中国語音韻学に関連する内容の文献を講読しつつ、同分野の基本的知識の習得と問題点に関する考察を行う。取り扱う領域や講読文献に関しては、受講者と相談の上決定することも可能であるが、担当者としては、陳れい『切韻考』の「序録」・「通論」を音韻学叢書で講読したいと考えている。最後に、各自研究テーマを決めてレポートを作成する。					
<b>授業の一般目標</b>					
中国語音韻学に関する基本的知識をマスターするとともに、中国語学関連文献の読解力と、問題点への考察力を養う。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 1. 中国語音韻学の基本知識をマスターする。					
2. 文献資料の内容が正しく理解できる。					
<b>思考・判断の観点:</b> 中国語に見られる特定の事象に関して、正しい考察・判断ができる。					
<b>技能・表現の観点:</b> 自身の研究成果を、レポートの形式により効果的に報告できる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
授業中の課題の達成度と学期末のレポート、授業中の考察・討論への参加度によって総合的に評価する。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
人文学部5階 Tel.933-5251					
<b>オフィスアワー</b>					
月曜日 12:50-14:20					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	2011921004
<b>開設科目名</b>	中国文学論			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	~
<b>担当教員</b>	阿部 泰記			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
包拯伝説の歴史的展開について講じる。包拯は北宋時代の官吏で、毅然とした態度で奸臣に立ち向かいその野望を挫いたため、民衆に慕われてその業績が文学に取材されて伝説的な人物となり、現代中国でも「包公」と言えば知らない人はいないし、崇拜の対象ともなっている。本講義ではこうした文学を媒体とした包拯の伝説を具体的に紹介していく。					
<b>授業の一般目標</b>					
1.中国の政治と文学の関係について理解を深める。 2.伝説が文学を媒体として拡散することを理解する。 3.伝説が事実として認識される事象について理解する。 4.中国の物語のジャンルについて知る。 5.伝説と信仰との関係について考える。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 1.包拯という人物の業績について知る。 2.包拯の伝説に取材した文学を知る。 3.包拯を祀った廟の分布を知る。					
<b>思考・判断の観点:</b> 1.民衆がなぜ包拯を慕うのかを考える。 2.民衆にとって文学とは何かを考える。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 1.包拯について図書館で文献を調べてみる。 2.インターネットで包拯に取材した文学や包公廟について検索してみる。					
<b>態度の観点:</b> 1.授業を真剣に聞く態度をやしなう。 2.授業の内容をノートする態度をやしなう。					
<b>技能・表現の観点:</b> 1.手際よくノートする訓練をする。 2.中国のインターネットを検索する能力を身につける。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
1.出席・レポート提出ができない者は評価の対象外である。 2.どれだけ授業を理解できたかを評価の基準とする。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
包公伝説の形成と展開 / 阿部泰記: 東京 : 汲古書院, 2004 中国の公案小説 / 莊司格一: 東京 : 研文出版, 1988					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
abey@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	2011921005
開設科目名	中国文学論			単位	2単位
対象学生				学年	～
担当教員	李 文相			区分	
<b>授業の概要</b>					
<p>17世紀中葉の朝鮮時代、南道地方で発祥したパンソリには、14世紀末葉から500年間続いた朝鮮時代の儒教社会を生きた庶民の積もった恨(ハン)を解く不思議な魅力がある。</p> <p>パンソリの叙事的な語りの背景には儒教思想が主流を成しており、至る所に漢文や漢詩、諺の例えなど、中国文化の影響が大きい。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>パンソリを通じて朝鮮時代の民衆の人生観に触れ、朝鮮時代における中国文化との関わりについて理解する。韓国の文化と中国の文化を関連付けながら日本文化の理解に役立て東アジアに対して幅広い知識と教養を身につける。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b>パンソリの辞説を通じて朝鮮時代の中国文化との関わりについて理解する。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b>儒教思想や人々の人生観について理解する。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b>パンソリの鑑賞を通じて中国文化との接点を見出す。</p> <p><b>態度の観点:</b>中国と朝鮮文化の関わりを知り、日本文化への影響を総合的に捉える。</p> <p><b>技能・表現の観点:</b>東アジア文化圏の拡がりに興味を持つ。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
レポートの提出、出席状況					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
パンソリ芸術の感性にふれながら楽しい雰囲気中国文化との関わりについて考えましょう。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	2011921006
<b>開設科目名</b>	中国文学論演習			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	~
<b>担当教員</b>	根ヶ山 徹			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
古代漢語で書かれた原文を読解し、分析する能力を養うことを目標とする。					
<b>授業の一般目標</b>					
古代漢語で書かれた原文を読解し、分析する能力を養うことを目標とする。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 中国戯曲演劇史のなかでの、作品の位置づけを理解する。					
<b>思考・判断の観点:</b> 作品の主題を的確に把握できる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 明代の白話文学の特質について関心をいだく。					
<b>態度の観点:</b> 出典などについて、適切に調べることができる。					
<b>技能・表現の観点:</b> 本文・注釈についての解釈を、適切に発表することができる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<b>教科書</b>					
六十種曲評注 / 黄竹三・馮俊傑: 吉林人民出版社, 2001					
全元曲 / 徐徵・張月中・張聖潔・爰海: 河北教育出版社, 1998					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	2011922001
<b>開設科目名</b>	英米語論			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	~
<b>担当教員</b>	赤羽 仁志			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
英語と日本語には様々な相違点が見出せる。例えば、英語では Mary bought a book. を A book bought Mary. のように語順を変えることができないのに対し、日本語では「花子が本を買った。」を「本を花子が買った。」とすることができる。このような表面的相違は、根本的にどのようなところから生ずるのか。生成文法の「原理とパラメタのアプローチ」の枠組みを前提に、英語と日本語の文法の比較を行う。					
<b>授業の一般目標</b>					
日・英語比較統語論の基礎を学ぶことにより、英語と日本語の理解を深める。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 英語と日本語の文法現象について理解する。					
<b>思考・判断の観点:</b> 日本語と英語の文法現象について、理論的に分析することができる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 言語の普遍性と体系的多様性に関心を持つ。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
期末試験により評価する。出席状況も加味することがある。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
Japanese Syntax in Comparative Grammar / 長谷川信子: くらしお出版, 1993					
The Oxford Handbook of Japanese Linguistics / Shigeru Miyagawa, Mamoru Saito: Oxford Univ Pr, 2008					
構造から見る日本語文法 / 三原健一: 開拓社, 2008					
新日本語の統語構造 ミニマリストプログラムとその応用 / 三原健一、平岩健: 松柏社, 2006					
Japanese Linguistics / Natsuko Tsujimura: Routledge, 2005					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
akahane@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
特に設けず、アポイントメントによる。					



<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	2011922002
<b>開設科目名</b>	英米語論			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	~
<b>担当教員</b>	和田 尚明			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<b>授業の一般目標</b>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	2011922003
<b>開設科目名</b>	英米語論演習			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	~
<b>担当教員</b>	岩部 浩三			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
英語学の専門文献を読み、その内容を理解し、プレゼンテーションを行う。論文のテーマについては、各自の研究題目に応じて指示する。					
<b>授業の一般目標</b>					
英語で書かれた専門論文の読解能力を養い、わかりやすく説明できるプレゼンテーション技術を身につける。英語学の基礎的概念を理解する。自分の関心に基づいて研究テーマを絞りこみ、修士論文執筆の準備をする。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 英語学の基礎的概念を理解し、例を用いて説明できる。					
<b>思考・判断の観点:</b> 論文中の不明な箇所を特定し、調べることができる。質問して解決できる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 内容を発展させ、問題点を発見して解決しようとする意欲を持つ。具体的な研究テーマを定めて研究できる。					
<b>技能・表現の観点:</b> 専門論文を自力で読み進める英語力・専門基礎力を身につけている。論理的な議論を組み立てレポートを書くことができる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
演習を通じて、読解力を評価する。プレゼンテーションを通じて、技術表現力、知識・理解力を評価し、思考判断力と関心意欲、課題解決能力を総合的に評価する。また、各自の研究テーマに応じたレポート提出を求める。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
iwabe@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
金曜日 12:50-14:20 メールで事前にご連絡ください					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	2011922004
<b>開設科目名</b>	英米語論演習			<b>単位</b>	2 単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	~
<b>担当教員</b>	太田 聡			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
日本語音声・音韻構造を分析した最新の理論書を丹念に読みこなし、英語のそれととの違いや共通性について検討していく。 また、副読本として、英語論文の書き方(特に punctuation)について書かれた文法書も読んでいく。					
<b>授業の一般目標</b>					
英語と日本語の音声・音韻構造の相違点・共通点について理解を深め、修士論文執筆のためのテーマを見つける。また、論文のスタイルに関する知識を確かなものとする。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 日本語と英語の音声・音韻構造の共通点・相違点をきちんと理解する。					
<b>思考・判断の観点:</b> テキストの中で提唱されている理論や分析方法の矛盾点にも気づく。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 問題・矛盾のある箇所を発見した場合に、それを解決するために、代案を考えるようにする。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
演習と期末レポートの出来具合によって評価する。					
<b>教科書</b>					
Phonetics and Phonology of Mora, Feet and Geminate Consonants in Japanese / Hiromi Otaka: Univ Pr of Amer , 2008					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
ohta@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	2011922005
<b>開設科目名</b>	英米語論演習			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	~
<b>担当教員</b>	赤羽 仁志			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
Chomsky の Barriers を読みながら、ミニマリスト・プログラムまでの展開を振り返る。					
<b>授業の一般目標</b>					
現行の生成文法の枠組みであるミニマリスト・プログラムにおける統語論の議論を理解するため、その基礎となる'80年代の原理とパラメタのアプローチについて英文テキストを講読し理解を深める。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 原理とパラメタのアプローチにおける諸概念、および理論の展開過程を理解する。					
<b>思考・判断の観点:</b> 論理的且つ緻密な思考ができる。					
<b>態度の観点:</b> 言語現象について科学的に説明する態度を身に付ける。					
<b>技能・表現の観点:</b> 口頭および文章により専門的な議論ができる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
授業への参加(発表・討論)とタームペーパーにより評価する。					
<b>教科書</b>					
Barriers / Noam Chomsky: MIT Press , 1986					
<b>参考書</b>					
The Handbook of Contemporary syntactic Theory / Mark Baltin and Chris Collins: Blackwell					
Foundational Issues in Linguistic Theory / Robert Freidin, Carlos P. Otero, Maria Luisa Zubizarreta: MIT Press , 2008					
Bare Syntax / Cedric Boeckx: Oxford Univ Pr , 2008					
A Theory of Syntax: Minimal Operations and Universal Grammar / Norbert Hornstein: Cambridge University Press , 2009					
Natural Language Syntax / Peter W. Culicover: Oxford Univ Pr , 2009					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
akahane@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
特に設けず、アポイントメントによる。					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	2011922006
<b>開設科目名</b>	英米文学論			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	~
<b>担当教員</b>	宮原 一成			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
20世紀、特にその後半の英語圏文学において、とみに急増した「現在時制の語り」を用いた作品について、その文体的効果を、個別的そして包括的に考えていきます。					
<b>授業の一般目標</b>					
文章の内容ばかりでなく、その文体にも目配りすることで、文学というコミュニケーションのあり方や背景的状况について深く考察できるようになる。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 現行の基本的な時間論、文体論、及び現代英文学作品の基礎知識を把握している。					
<b>思考・判断の観点:</b> 文体の効果について理論を立て、もしくは先行研究を適切に取舍選択し、自分なりの一貫した思考を紡ぐことができる。					
<b>態度の観点:</b> 継続して課題に取り組む姿勢をもつ。					
<b>技能・表現の観点:</b> 思考結果を、首尾一貫した日本語論説文形式で表現できる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
数回の小レポートと、学期末筆記試験。無断欠席が三回を超えると、単位は出さない。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
miyahara@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
初回授業時に知らせます。					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	2011922007
<b>開設科目名</b>	英米文学論			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	~
<b>担当教員</b>	皆尾 麻弥			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
Nathaniel Hawthorne(1804-1864)の短編を読む。					
<b>授業の一般目標</b>					
『緋文字』等の長編小説が有名である Hawthorne であるが、その短編もまた、同時代の作家であるメルヴィルやポーによって高く評価された。格調高い文章の凝縮した彼の短編を丹念に読むことによって、彼が生涯持ち続けたテーマ、彼の作品の特徴などを、考察する。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 作品の具体的内容を理解する。					
<b>思考・判断の観点:</b> 作家が一つ一つの言葉にこめた思いを正確に捉える。文章の裏に隠された意味を考えて読む。					
<b>関心・意欲の観点:</b> Hawthorne の作品を積極的に読む。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
学期末にレポートを提出					
<b>教科書</b>					
Selected Tales and Sketches / Nathaniel Hawthorne: Penguin					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	2011922008
<b>開設科目名</b>	英米文学論			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	~
<b>担当教員</b>	伊豆 大和			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
20世紀前半のアメリカ小説について、それぞれの作品のテーマ・意義等を検討する。					
<b>授業の一般目標</b>					
外国文学を読み、研究することはどういふことをするのか。 このことについての意識・認識を高める。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> アメリカ文学についての知識・理解の確認					
<b>思考・判断の観点:</b> 講義内容を各自の論理・思考で表現する能力の確認					
<b>関心・意欲の観点:</b> 講義内容に対する興味・関心の度合いの確認					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
期末試験により評価する。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	2011922009
<b>開設科目名</b>	英米文学論演習			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	~
<b>担当教員</b>	宮原 一成			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
現代英国系作家の小説を数本読む。一本目は J. G. Farrell の作『The Siege of Krishnapur』(1973)。その後は、受講者と相談して決める。					
<b>授業の一般目標</b>					
小説作品について、専門的な議論をする力を養う。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 原文をまず英語として正確に理解する。					
心理描写、社会風俗描写を正しく理解する。					
<b>思考・判断の観点:</b> 作品の訴えかけるものについて、自分なりの批評的所見を形成する。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
発表の出来具合 + 討論への貢献度。3回以上欠席したら、不可。					
<b>教科書</b>					
The Siege of Krishnapur / J.G. Farrell: New York Review Books, 2004					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
受講予定者は入学式後早めに担当教員に連絡すること。教科書の手配は担当教員が行う。					
<b>連絡先</b>					
miyahara@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					



<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	2011922010
<b>開設科目名</b>	英米文学論演習			<b>単位</b>	2 単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	~
<b>担当教員</b>	池園 宏			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
19 世紀イギリスの小説家 Charles Dickens の Great Expectations、及びこの作品に関する論文を読む。					
<b>授業の一般目標</b>					
テキストと論文を読む作業を通して、Dickens の作家像及び 19 世紀ヴィクトリア朝英文学における位置づけを理解する。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 作家や作品、及び関連する論文の具体的内容を説明できる。					
<b>思考・判断の観点:</b> 作品に盛り込まれた諸テーマを、自分なりの視点で分析できる。					
<b>態度の観点:</b> 常に問題意識を持って議論に参加できる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
(1)本作品について 4000-5000 字程度のレポートを作成し、提出する。					
(2)出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。					
<b>教科書</b>					
Great Expectations / Charles Dickens: Penguin, 1985					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
ikezono@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	2011922011
<b>開設科目名</b>	英米文学論演習			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	~
<b>担当教員</b>	皆尾 麻弥			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
Vladimir Nabokov(1899 - 1977)の小説 Glory を読む。					
<b>授業の一般目標</b>					
Nabokov のロシア語による小説の第一作目に当たるこの作品には、後のこの作家の作品の基礎となるようなテーマや、作家の生涯にわたる関心事が盛り込まれている。この小説を通してナボコフの作家像を把握する。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 小説の具体的内容を理解する					
<b>思考・判断の観点:</b> ひとつひとつのことば、表現を大切に、そこにこめられた意味を丁寧に考える					
<b>関心・意欲の観点:</b> 疑問に思ふ点については詳細に調べ、考えてみる習慣をつける					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
毎回の授業の取り組みによる					
<b>教科書</b>					
Glory / Vladimir Nabokov: Penguin Books Ltd; New Ed 版					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	2011923001
<b>開設科目名</b>	ドイツ語論			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	~
<b>担当教員</b>	下寄 正利			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
ドイツ語の特徴を、英語と比較しつつ、様々な観点から論じてゆく。					
<b>授業の一般目標</b>					
ドイツ語の特徴について理解しているとともに、ドイツ語学の基本的なところがある程度身に付いている。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> ドイツ語の特徴について理解しているとともに、ドイツ語学の基本的なところがある程度身に付いている。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
期末テストにより評価する。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	2011923002
<b>開設科目名</b>	ドイツ語論演習			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	~
<b>担当教員</b>	本田 義昭			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
ドイツ語学の専門文献を、論の展開の仕方などに注意しながら読んで行きます。					
<b>授業の一般目標</b>					
ドイツ語学の専門文献を批判的に読みこなせる能力を養う。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> ドイツ語学の専門的知識をさらに深める。					
<b>思考・判断の観点:</b> 論の展開を把握する。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 広く言語現象への関心を深める。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
平素の学習、特に授業への積極的参加を重視します。次のいずれかの場合は失格とします。1)最初の6回中3回欠席, 2)連続3回欠席, 3)通算4回欠席。 「演習」の観点は「授業態度・授業への参加度」および「受講者の発表(プレゼン)・授業内での制作作品」で評価します。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
文章も内容も平易ではないので、十分に予習して授業に臨んでください。					
<b>連絡先</b>					
honda@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	2011923003
<b>開設科目名</b>	ドイツ文学論			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	~
<b>担当教員</b>	HINTEREDER EMDE FRANZ			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
現代ドイツ思想史の作品から文学論、翻訳論や文化論についての箇所を読みます。					
<b>授業の一般目標</b>					
文化・文学・翻訳などの問題点を正確に把握して議論できることが目標です。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 文学論を広い意味で理解し、具体的に論じることができる。					
<b>思考・判断の観点:</b> 文学論や文化論の問題を把握した、そして資料において分析して、理解する。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 文化・文学や翻訳について高い関心を持ち、多面的に取り組むことができる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
レポート:70%、授業への参加:30%、					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
電話 933 - 5687 mail emde@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
月曜日 12:50 ~ 14:20					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	2011923004
<b>開設科目名</b>	ドイツ文学論演習			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	~
<b>担当教員</b>	坂本 貴志			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
いわゆる「モーセ五書」(『創世記』『出エジプト記』『レビ記』『民数記』『申命記』)を、聖書という枠を外して読解を試みる。					
<b>授業の一般目標</b>					
「モーセ五書」は驚異的なこと、不可思議なこと、理解しがたいことの記述に満ちている。これらの記述の背景には、人間とその集団が宗教を軸として一つの社会を構成していく際の秘密のメカニズムがあるように考えられる。それを読み解こうとするのがテーマである。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
期末レポートによる。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	2011923005
<b>開設科目名</b>	フランス語論			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	~
<b>担当教員</b>	武本 雅嗣			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
フランス語の様々な構文について機能的・認知的観点から分析していく。					
<b>授業の一般目標</b>					
フランス語の様々な構文の形式と意味の連関を把握する。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 能動文と受動文と再帰構文やジェロンディフ構文と現在分詞構文の間の形式的・意味的相違について説明できる。					
<b>思考・判断の観点:</b> 種々の構文の制約を説明できる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
レポート:70%					
授業態度や授業への参加度:30%					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
人文612研究室					
<b>オフィスアワー</b>					
火曜日 16:10 ~ 17:40					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	2011923006
<b>開設科目名</b>	フランス語論演習			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	~
<b>担当教員</b>	武本 雅嗣			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
今年度は、Le gerondif en francais を読んでいく。					
<b>授業の一般目標</b>					
フランス語で書かれた論文を読むことによって、フランス語学の知識を深めるだけでなく、論文の書き方や議論の展開の仕方も学んでいく。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 論文を正確に読める。					
<b>思考・判断の観点:</b> 疑問点を解決する					
<b>関心・意欲の観点:</b> 議論に参加できる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
レポート:60%					
授業内発表:40%					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					
火曜日 16:10 ~ 17:40					



<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	2011923007
<b>開設科目名</b>	フランス文学論			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	~
<b>担当教員</b>	井上 三朗			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
講義題目を、「ジュリアン・グリーン青春時代」とし、フランソワ・モーリアックとともに、20世紀フランスの代表的なカトリック作家である、ジュリアン・グリーンの青春時代を概観する。はじめに、グリーンの子ども時代、思春期、および留学時代をごく簡単に説明し、そのあと、1922年7月から1924年11月までの、彼の青春時代を検討する。まず外的・表面的な生をたどり、次に感情生活、それから肉体生活、そして信仰生活を瞥見する。					
<b>授業の一般目標</b>					
この授業は、ひとりの作家の生涯の一時期に焦点を合わせたものであり、評伝の一環をなす。伝記研究は、文学研究のひとつの有効な方法である。作家の生涯と作品との関連を明らかにすることによって、文学研究の参考材料を提供したい。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> キリスト教(カトリック)文学がいかなるものであるのかを、知ることができる。					
<b>思考・判断の観点:</b> 文学研究のありうべきかたちが何であるのかを、考えることができる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 自伝の文学に関心を持つことができる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
試験の点数と平常点との総合。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
授業への積極的な参加を望む。					
<b>連絡先</b>					
613研究室。					
<b>オフィスアワー</b>					
14時30分～16時00分。					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	2011923008
<b>開設科目名</b>	フランス文学論演習			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	~
<b>担当教員</b>	井上 三朗			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
フランスのいわゆるヌーヴェル・クリティックの大家、ジャン・ルーセの『形式と意味作用』の<序文>をテキストに用いる。この作品をテキストに用いることで、批評とは何か、文学研究とは何か、ということを知りたい。					
<b>授業の一般目標</b>					
テキストを読み進めることによって、論文のフランス語の読解力を養成することはもちろんであるが、概要のところでも述べたように、批評とは何か、文学研究とは何か、ということを知ることができるので、文学作品を論じる際の手がかりを得ることができれば幸いである。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 論文のフランス語の読解力を養うことができる。					
<b>思考・判断の観点:</b> 批評とは何か、文学研究とは何か、を考えることができる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> いわゆるヌーヴェル・クリティック(新しい批評)に関心を持つことができる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
平常点で評価したいと思っている。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
授業への積極的な参加が望まれる。					
<b>連絡先</b>					
613研究室。					
<b>オフィスアワー</b>					
月曜日14時30分~16時00分。					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	2011924001
<b>開設科目名</b>	言語構造論			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	~
<b>担当教員</b>	平野 尊誠			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>前期は、日本語と英語の連体修飾構造もしくは関係節構造(修飾節と被修飾語を含めてこのように呼ぶことにする)を、統語的観点から取り扱う。いわゆる先行詞は、関係節の中の主語、目的語、間接目的語、時間・場所・道具などを表す副詞的なものが可能である。この観点から日本語と英語のこの構造の類似点と相違点について理解する。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>1.日本語の連体修飾構造と英語の関係節構造が同じ言語現象であることを理解する。2.それらを構造的に捉える。3.類似点と相違点を形式化できるか。4.他の言語との比較に繋げる。5.これらを基に、言語学的に考察する能力を養う。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 内容を理解できるか。					
<b>思考・判断の観点:</b> 科学的観点に立った思考が出来るか。					
<b>関心・意欲の観点:</b> このような現象を形式的に捉える意欲はあるか。					
<b>態度の観点:</b> 授業に参加できるか。					
<b>技能・表現の観点:</b> 考察したことを分かり易く説明できるか。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
学期末試験を中心に、小テストの結果を加味して評価する。					
<b>教科書</b>					
An introduction to Japanese linguistics. / Tsujimura, Natsuko :Blackwell , 1996					
Introduction to typology. / Whaley, Lindsay J. :Sage , 1997					
<b>参考書</b>					
Language universals and linguistic typology. (2nd edition) / Comrie, Bernard :Univ. of Chicago Press. , 1989					
<b>メッセージ</b>					
必ず予習をしてください。講義が終わった段階で、内容が理解できればそれでいい。					
<b>連絡先</b>					
人文617研究室					
mail-address:hirano01@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
未定					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	2011924002
<b>開設科目名</b>	言語構造論			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	~
<b>担当教員</b>	乾 秀行			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
日本語の系統をめぐる問題は、明治以来日本語に関する最も大きな問題の一つとして言語学者の間だけでなく広く一般の関心を集めてきました。それは日本文化の発祥や日本民族の起源という、多くの人にとって興味のある問題と密接に関連しているからです。そこで本講義では、従来の日本語系統論の議論を検証するため、前期は比較言語学的観点および言語類型論的観点からこの問題に迫ってみることにします。					
<b>授業の一般目標</b>					
1. 今までの日本語系統論について整理する。 2. 比較言語学について理解を深める。 3. 言語類型論について理解を深める。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
出席点、小レポート、期末レポート。					
<b>教科書</b>					
世界言語のなかの日本語—日本語系統論の新たな地平 / 松本克己: 三省堂, 2007					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
ノートパソコンを使用します。					
<b>連絡先</b>					
f1566@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	2011924003
<b>開設科目名</b>	言語構造論演習			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	~
<b>担当教員</b>	平野 尊識			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
修士論文作成のための演習である。					
<b>授業の一般目標</b>					
修士論文の作成を援助する。受講者が問題を見付け、自主的に研究することが重要。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 言語学の方法を理解しているか。					
<b>思考・判断の観点:</b> 問題点を言語学的に処理できるか。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 問題点を幾つかの言語と比較しながら考察する意欲はあるか。					
<b>態度の観点:</b> 修士論文は、受講者の責任において作成することの認識。					
<b>技能・表現の観点:</b> 分かりやすく説明できているか。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
演習における発表の内容、技能等に基づいて評価する。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
受講者が自ら問題点を見付けてくることが重要である。					
<b>連絡先</b>					
人文617研究室 mail-address:hirano01@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
未定					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	2011924004
<b>開設科目名</b>	言語構造論演習			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	~
<b>担当教員</b>	乾 秀行			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
論文指導をします。関連論文を読みながら、問題点を探る。					
<b>授業の一般目標</b>					
修士論文が書けるようになる。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
出席点。期末レポート。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
f1566@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	2011924005
<b>開設科目名</b>	言語構造論演習			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	~
<b>担当教員</b>	和田 学			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
朝鮮語・日本語の対照研究に関する文献を批判的に読み、考察の範囲を拡大・深化させ、データを蓄積して行きます。					
<b>授業の一般目標</b>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 先行研究を理解することを目指します。 <b>思考・判断の観点:</b> 先行研究の主張の可否を検討します。 <b>関心・意欲の観点:</b> 自ら、研究の材料となる現象を探します。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	2011924006
<b>開設科目名</b>	言語情報論			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	~
<b>担当教員</b>	PHILLIPS JOHN DAVID			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<b>授業の一般目標</b>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					



<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	2011924007
<b>開設科目名</b>	言語情報論			<b>単位</b>	2 単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	~
<b>担当教員</b>	PHILLIPS JOHN DAVID			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>This is a course in Machine Translation - making a computer translate from one language into another.</p> <p>Concentrating on the linguistic aspects of the problem, we will look at how to describe English and Japanese grammar in a form which a computer can use, and at how a computer can translate using these descriptions.</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
An understanding of the basic problems and techniques of Machine Translation from a linguist's point of view.					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
Written examination. 期末試験					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
「自然言語処理の基礎」 / 吉村賢治:サイエンス社 , 200 An introduction to machine translation / W.J Hutchins & H.L. Somers: Academic Press , 1992					
<b>メッセージ</b>					
授業では英語をよく使う。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	2011924008
<b>開設科目名</b>	言語情報論演習			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	~
<b>担当教員</b>	PHILLIPS JOHN DAVID			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
初心者向けのプログラミングの授業。基礎からプログラミングを学ぶ。					
<b>授業の一般目標</b>					
「プロログ」というプログラミング言語で、プログラミングを基礎から応用までを学ぶ。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
一週間おきに実施するプログラミングの宿題で判定する。					
<b>教科書</b>					
「Introduction to Prolog Prolog 入門」 / 岡田朋子: 授業で配布します。					
<b>参考書</b>					
「PROLOG を楽しむ」 / 松田紀之: オーム社, 平成5年					
「楽しいプログラミング II」 / 上田和紀: 岩波新書, 1992					
「Prolog 入門」 / 古川康一: オーム社, 1986					
「Prolog のソフトウェア作法」 / 黒川利明: 岩波新書, 1989					
<b>メッセージ</b>					
授業では英語をよく使う。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	2011925001
<b>開設科目名</b>	比較文学論			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	~
<b>担当教員</b>	HINTEREDER EMDE FRANZ			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
比較文学の基本的な問題点を具体的な文学作品を通して考察します。					
<b>授業の一般目標</b>					
比較文学の問題点を把握できることと資料や作品に基づいて論じることが目標です。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 比較文学の論点を理解し、必要な知識を身に付けることができる。					
<b>思考・判断の観点:</b> 具体的な作品において比較文学の方法において論じることができる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
授業ごとに感想やコメントを書いてもらい、感心や問題意識によって評価します(40%)。レポートに自らの選んだ作品において比較文学の試みに挑戦して欲しいです(40%)。出席や積極的な参加も必要です(20%)。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
電話 933 - 5687 mail emde@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
月曜日 12:50 ~ 14:20					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	2012910001
<b>開設科目名</b>	西洋哲学思想論演習			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	~
<b>担当教員</b>	脇條 靖弘			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
古代ギリシア、あるいは、現代の哲学関連の文献を読む。					
<b>授業の一般目標</b>					
文献を正確に読み、そこに見られる哲学的議論を整理し、評価する。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 文献を正確に読む。					
<b>思考・判断の観点:</b> 文献の議論を哲学的に考察する。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
レポートによる。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
yasu@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	2012910002
<b>開設科目名</b>	西洋倫理思想論演習			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	~
<b>担当教員</b>	古荘 真敬			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
西洋の哲学・倫理思想に関する研究発表(または文献報告)と討議を行う					
<b>授業の一般目標</b>					
哲学・倫理学の諸問題に関して、各自の問いの水準を深化し、専門的な知見にもとづく議論を構成すること。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
授業内における発表報告により評価する。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
furusho[a]yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
水曜日 12:50 から 14:20					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	2012910003
<b>開設科目名</b>	中国哲学思想論			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	~
<b>担当教員</b>	高木 智見			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
前期に同じ					
<b>授業の一般目標</b>					
前期に同じ					
<b>授業の到達目標</b>					
知識・理解の観点:前期に同じ					
思考・判断の観点:前期に同じ					
関心・意欲の観点:前期に同じ					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
前期に同じ					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
前期に同じ					
<b>連絡先</b>					
人文棟五階510					
<b>オフィスアワー</b>					
火曜日十六時から十七時					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	2012910004
<b>開設科目名</b>	中国哲学思想論演習			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	~
<b>担当教員</b>	高木 智見			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
前期に同じ					
<b>授業の一般目標</b>					
前期に同じ					
<b>授業の到達目標</b>					
知識・理解の観点:前期に同じ					
思考・判断の観点:前期に同じ					
関心・意欲の観点:前期に同じ					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
前期に同じ					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
前期に同じ					
<b>連絡先</b>					
前期に同じ					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	2012910005
<b>開設科目名</b>	日本思想論演習			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	豊澤 一			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
受講者と相談の上、講義内容を決定します					
<b>授業の一般目標</b>					
受講者が自らの研究テーマにしたがって研鑽を積むことに、助言・指導を行います。そのことによって、受講者が修士論文を滞りなく完成させることを目標とします。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
受講者のテーマ等に応じて、適宜、対応します。一応、期末レポート50%、出席50%としておきます。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
人文学部棟 409 号研究室 TEL:(内線)5218 / e-mail : toyosawa@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
大抵、研究室におりますので、電話で(あるいは e-mail で)在室を確認してからご来室ください。					



<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	2012910006
<b>開設科目名</b>	日本思想論演習			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	~
<b>担当教員</b>	柏木 寧子			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
日本思想史の諸問題 受講生の関心に従って、日本思想史における基本的文献を採り上げ、主として内在的読解に拠り、併せて関連文献・先行研究の検討も行いながら、その思想内容を具体的に解明します。					
<b>授業の一般目標</b>					
日本思想史に関わる知識・理解をもち、内在的研究の方法を学び習得するとともに、自らの関心に従って問いを発見・追求すること。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
(1) 授業時間内の報告(演習)。(2) 期末レポート。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
kashiwg@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
水曜 13:00-14:00 ほかの曜日・時間帯でも可能ですので、あらかじめメール等で面会の希望をお知らせください。					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	2012910007
開設科目名	比較宗教論			単位	2単位
対象学生				学年	～
担当教員	ALAM DJUMALI			区分	
<b>授業の概要</b>					
<p>後期の宗教学特殊講義は「宗教と芸術」をテーマとする。次のような問いを出発点とする。およそすべての宗教的現象には芸術の要素が含まれ、またおよそすべての芸術には宗教的な要素が含まれるのはなぜなのか？宗教も芸術も、人間の心に内在する本性として、何か隠れた共通点をもっているのではないか？それは機能なのか、実体なのか？各地の宗教と芸術はどのように、なぜ、何のために結びついているのか？宗教と芸術はどこへ、どのように、なぜ変容するのか？</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>「宗教と芸術」の課題について、資料的な情報を知って考えるだけでなく、深く想像して顧みながら、その本質の体系化を試みる。最終的には、宗教学という学問分野から見た「宗教」と「芸術」とは何か、という課題について、一定の図式と枠組みを身につけ、個々の宗教と芸術現象を一定の視点をもって捉えたり分析したりできるようになることを目指す。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b>宗教学と「宗教学から見た芸術」に関する主要な課題について一定の理解と知識を身につけること。  <b>思考・判断の観点:</b>個々の宗教と芸術現象について、一定の視点から分析できるようになること。  <b>関心・意欲の観点:</b>日常生活における身近な宗教と芸術現象について関心を抱くこと。  <b>態度の観点:</b>授業中の良識ある態度(私語しないこと、遅刻と途中退室しないこと、居眠りしないこと、など)。  <b>技能・表現の観点:</b>宗教と芸術現象に関する記述力を養うこと。  <b>その他の観点:</b>宗教と芸術現象を捉える感性を磨くこと。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>授業内小レポート/小テストを12回、中間レポートを1回、最終レポートを1回、課す。中間レポートと最終レポートは、「文章を中心とするレポート」と「描写・描画を中心とするレポート」のいずれかを選択できるようにする。</p>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<p>授業はできるだけ体系的にわかりやすく、範囲を限定して行う。授業に出ることによって参加者が、毎回または全体として、宗教学に関する一定の内容と枠組みを身につけることを目指す。そのためには、参加者のほうも、毎回の授業に出席し、多少の復習をする必要がある。</p>					
<b>連絡先</b>					
<p>ジユマリ・アラム / 電子メール:djumali@yamaguchi-u.ac.jp / ホームページ:http://alam.hmt.yamaguchi-u.ac.jp/ / 電話(研究室):083-933-5220 / 研究室:人文学部413号室</p>					
<b>オフィスアワー</b>					
<p>随時</p>					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	2012910008
開設科目名	比較宗教論演習			単位	2単位
対象学生				学年	～
担当教員	ALAM DJUMALI			区分	
<b>授業の概要</b>					
<p>参加者各自が研究したい、または関心のある宗教現象を取り上げ、宗教学的な考察と分析を行う。宗教学の領域範囲内の自由発表形式となるが、宗教学的な視点・枠組み・理論・方法論が十分に活かされるように、プレゼンテーションの準備段階または初回のプレゼンテーションで、個別的な指導やアドバイスをを行い、実際のプレゼンテーションや次回のプレゼンテーションにおいて反映されるようにする。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>宗教が人間と社会の生活にいかにか深く浸透し、不可避的に伴うものであり、一方では人間生活にとって根源的な役割を果たしているが、他方では形骸化に陥ったり社会・文化的な問題をもたらしたりする場合がある、ということを一定の分析的な体系と枠組みをもって捉えらるようになること。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b>宗教学のアプローチと枠組みを身につけること。  <b>思考・判断の観点:</b>個々の宗教現象について、一定の視点から分析できるようになること。  <b>関心・意欲の観点:</b>日常生活における身近な宗教現象について関心を抱くこと。  <b>態度の観点:</b>宗教に関するいろいろな課題について積極的に知ろうとすること。また授業中はできるだけ気楽に、明るく、元気に、積極的に参加すること。  <b>技能・表現の観点:</b>宗教学の理論・学説および宗教現象に関する記述力を養うこと。  <b>その他の観点:</b>宗教現象を捉える感性を磨くこと。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>最終レポートを課す。最終レポートは、「文章を中心とするレポート」と「描写・描画を中心とするレポート」のいずれかを選択できるようにする。</p>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<p>日常生活のあらゆる場を「様式と媒体」の次元として見て、その背後にある精神的な世界とのつながりを語る事ができれば、それだけで、それは立派な宗教学的考察になります。</p>					
<b>連絡先</b>					
<p>ジュマリ・アラム / 電子メール: djumali@yamaguchi-u.ac.jp / ホームページ: <a href="http://alam.hmt.yamaguchi-u.ac.jp/">http://alam.hmt.yamaguchi-u.ac.jp/</a> / 電話(研究室): 083-933-5220 / 研究室: 人文学部 413 号室</p>					
<b>オフィスアワー</b>					
<p>随時</p>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	2012910009
<b>開設科目名</b>	西洋哲学思想論			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	~
<b>担当教員</b>	脇條 靖弘			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
哲学の特定の問題を一つ取り上げ、諸哲学者の議論を手掛りにその解決の道を探究する。					
<b>授業の一般目標</b>					
一つの哲学的問題について深く探究する。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> とりあげた問題とその解決の試みを理解する。					
<b>思考・判断の観点:</b> その問題について哲学的考察を加える。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
レポートによる。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
yasu@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	2012910010
<b>開設科目名</b>	西洋倫理思想論			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	~
<b>担当教員</b>	古荘 真敬			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>「私が生きている」とは、一体どういうことなのでしょうか。いや、そもそも、「今ここ」に生きているのは本当に「私」なのでしょうか。「私の生」は、「私」なるものの思考や想念、意志とは独立に「常に既に持続してきているもの」として「私」に触れてきては、「私」を、「私」自身の由来と行方の定めがたさをめぐる思いへと時として誘うものであることでしょう。この不可思議な事態の本質について、「生命・主体・時間・感情」といった概念を(主として西洋哲学・倫理思想史上のテキストとの対話を通じて)あらためて耕しながら、考察することを試みます。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
西洋哲学・倫理思想史上の幾つかのテキストとの対話を通じ、「生命・主体・時間・感情」について原理的に考察すること。					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b>当該の主題に関連する西洋哲学・倫理思想史上の諸論考の要点を理解すること。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b>当該主題について、みずから問いを見出し、原理的な思考を展開すること。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
期末レポートによって評価します。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
furusho[a]yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
水曜日 12:50 から 14:20					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	2012910011
<b>開設科目名</b>	中国哲学思想論			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	高木 智見			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>中国学の「日本化」を考える場合、儒学が近世に入って広い階層の普及・浸透してゆく過程において日本の学者がどのようにこれを受け容れていったか、その内容と特色を理解しなければならない。元禄期において、近世以前に成立した日本の古典的教養も庶民階層に普及定着と共に、日本独自の学派が発生し、特に折衷考証の傾向は顕著になった。授業では、日本近世中期以降の古典に即した注釈とか事物の考証など、具体的・実証的な学問のあり方を究明する。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>思想史を科学として進める立場では、なるべく自分の主観をまじえないようにして、客観的実証的であると要求される。しかし同時に、研究の主体は現代に生きる自分であるから、古い思想を研究していても、それと自分との関わりを考察するということが、一つの重要な問題となる。従って、講義では中国思想の特色として重要だと思うものと、江戸時代以降、日本の理解の持つ意味を究明することとする。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>成績評価は出席状況(60%)、期末レポート(40%)に基づいて行う。</p>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<p>日本開化小史 / 田口卯吉・岩波文庫  徳川思想小史 / 源了圓・中公新書  中国思想を考える / 金谷治・中公新書  明治の漢学者たち / 町田三郎・研文出版  京大東洋学の百年 / 礪波護編・京都大学学術出版会</p>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<p>lien@nagasaki-u.ac.jp</p>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	2012910012
<b>開設科目名</b>	日本思想論			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	~
<b>担当教員</b>	豊澤 一			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
近世の陽明学派と言われる人々を考察の対象とします。中江藤樹(1608~48)、熊沢蕃山(1619~91)をはじめとして、乱を起こした大塩中斎、「楊朱陰王」と言われる佐藤一斎(1772~1859)等を考察します。まず、王陽明(1472~1528)の解説を試みます。					
<b>授業の一般目標</b>					
明治以後においても依然として思想的影響力の強い陽明学の系譜をたどる。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 朱子学に対する陽明学の特色を理解し、また近世日本の陽明学派と言われる儒者たちの思想内容を内在的に理解する。					
<b>思考・判断の観点:</b> 「満街の人、皆聖人」「無善無悪」といったスローガン					
<b>関心・意欲の観点:</b> 自己自身の思想とは異なる思想に興味を持ち、その意味を考える。					
<b>態度の観点:</b> 異質な物の存在に敬意を払い、自己との同異を考える。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
授業の最後の10分間ほどで疑問・考察などを書いていただきます。また期末試験を実施するか、またはレポート提出を求めるかいたします。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
人文学部棟 409号研究室 TEL: (内線: 5218) e-mail: toyosawa@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
木曜日 12:50~14:20					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	2012910013
開設科目名	比較宗教論			単位	2単位
対象学生				学年	～
担当教員	ALAM DJUMALI			区分	
<b>授業の概要</b>					
<p>「現代日本、パリ、ジャワ、アボリジニに見る宗教的(精神的)世界」をテーマとする。この4地域の宗教について、それぞれ、3回から4回の授業を行う。</p> <p>これらの具体的な宗教事例を通して、宗教とは何か、そのメカニズムと捉え方について、考えていく。世界宗教として知られる制度化した宗教というより、民間信仰や自然宗教、そして「文化としての宗教」や「生活の中の宗教」の存在、役割、諸側面のほうに注目する。全体として宗教現象には、人間の行為、思考、生活様式、観念、規範などに関する、どのようなパターン・傾向・枠組みがあるのかを探っていく。</p> <p>毎回の授業は、おおよそ次の段取りで行う。</p> <p>小テスト/小レポート(約10分)。</p> <p>講義(約45分)。</p> <p>グループディスカッション+代表者発言+解説・総括(約30分)。</p> <p>テキスト/教科書は用いないが、各テーマについて毎回、レジュメ(ときには参考資料のコピー)を事前に配布し、予習を促す。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>宗教という言葉が、いろいろな側面、定義、解釈、見方があって理解しにくくなったいま、宗教を、一方では人間にとつての普遍的な心の機能・メカニズムとして位置づけ、他方では個々の固有な文化現象として捉え、ダイナミックかつ包括的・本質的な枠組みと視点に親しむこと。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b>宗教学に関する主要な課題について一定の理解と知識を身につけること。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b>個々の宗教現象について、一定の視点から分析できるようになること。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b>授業中の良識ある態度(私語しないこと、遅刻と途中退室しないこと、居眠りしないこと、など)。</p> <p><b>態度の観点:</b>授業中の良識ある態度(私語しないこと、遅刻と途中退室しないこと、居眠りしないこと、など)。</p> <p><b>技能・表現の観点:</b>レポートによる記述力と表現力。</p> <p><b>その他の観点:</b>宗教現象を捉える感性と感受性を磨くこと。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>* 授業内小レポート/小テストを12回課す。</p> <p>* 中間レポートと最終レポートをそれぞれ1回課す。</p> <p>* 中間レポートと最終レポートは、「文章を中心とするレポート」と「描写・描画を中心とするレポート」のいずれかを選択できるようにする。</p> <p>* 参加者は一学期を通して、何回の授業・レポート/小テストに参加する必要があるのかについては、最初の授業のときに知らせる(一定の余裕がある)。</p>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<p>授業はできるだけ体系的にわかりやすく、範囲を限定して行う。授業に出ることによって参加者が、毎回または全体として、宗教学に関する一定の内容と枠組みを身につけることを目指す。そのためには、参加者のほうも、毎回の授業に出席し、多少の復習をする必要がある。</p>					
<b>連絡先</b>					
<p>ジュマリア・アラム / 電子メール:djumali@yamaguchi-u.ac.jp / ホームページ:http://alam.hmt.yamaguchi-u.ac.jp/ / 電話(研究室):083-933-5220 / 研究室:人文学部413号室</p>					
<b>オフィスアワー</b>					
<p>随時</p>					



<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	2012911001
<b>開設科目名</b>	日本歴史文化論			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	田中 誠二			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
「萩藩後期の藩財政」について講義をする。宝暦～文政期、天保期～嘉永期の二期にわけて、萩藩財政のシステム、家臣団財政と藩財政の関係、物価変動、後期経済のマクロ変動、萩藩財政の固有性などを具体的に解明する。					
<b>授業の一般目標</b>					
1. 藩財政の構造的理解を目指す。 2. システムの考え方を復元する方法を理解する。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 1. 藩財政の主要要素を具体的に理解する。 2. 史料の使い方、解釈の仕方を理解する。					
<b>思考・判断の観点:</b> 1. 主要要素の連関把握の仕方を理解する。 2. 考え方の復元の仕方を理解する。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
学期末試験にかえてレポートを提出し、その内容によって成績評価をする。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					
月曜日と金曜日の昼休み。					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	2012911002
<b>開設科目名</b>	日本歴史文化論			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	織藤 厚			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
戦前期日本と戦後期日本の連続性に係わる論点を中心に講義を進める。					
<b>授業の一般目標</b>					
官僚制・天皇制・政党制という三つの日本型システムの解析を通して日本近現代史を立体的に捉える視点を養う。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>思考・判断の観点:</b> 客観的かつ正確な資料や文献に触れながら、歴史を現代的な視点から再構成する力を養成する。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
論述試験で評価する。					
<b>教科書</b>					
帝国日本の原型とその再登場 / 織藤厚: 凱風社, 2009					
侵略戦争 / 織藤厚: 筑摩書房, 1999					
総力戦体制研究 / 織藤厚: 三一書房, 1981					
日本海軍の終戦工作 / 織藤厚: 中央公論社, 1996					
近代日本政軍関係史の研究 / 織藤厚: 岩波書店, 2005					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
既成の歴史観から抜け出そう!					
<b>連絡先</b>					
kloketsu@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
Wed.10:00-12:00					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	2012911003
<b>開設科目名</b>	日本歴史文化論演習			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	~
<b>担当教員</b>	田中 誠二			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
受講者の課題に近い原史料の写真版をテキストに、史料を精読する。また、受講生の課題に基づく報告を行い、討論をして内容を深める。					
<b>授業の一般目標</b>					
1. 近世史料のうち、難度の高い古文書が読解できる。 2. 自分の主題について、史料に基づいて論を立てることができる。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 1. 難度の高いくずし字の史料が読解できる。 2. 自分の主題に関する研究史の整理が的確にできる。					
<b>思考・判断の観点:</b> 1. 史料を用いての論証が精密にできる。 2. 自分の主題をオリジナルな論として立てることができる。					
<b>技能・表現の観点:</b> 1. 自分の見解を論理的に文章に表現できる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
定期試験にかえてレポートを提出し、その内容によって成績評価を行う。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					
月曜日と金曜日の昼休み。					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	2012911004
<b>開設科目名</b>	日本歴史文化論演習			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	~
<b>担当教員</b>	篠崎 厚			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
受講者の卒論に関連する報告を中心に進める。					
<b>授業の一般目標</b>					
問題意識を確実に論述で表現できる力を養う。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>思考・判断の観点:</b> 自らの問題関心を明らかにし、これについて自ら主体的に問題対象に取り組む姿勢を身につける。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
報告内容で評価する。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
歴史課題への取り組みは現代社会への取り組みに通ずる					
<b>連絡先</b>					
koketsu@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
Wed.AM10:00-12:00					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	2012911005
<b>開設科目名</b>	日本歴史文化論演習			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	~
<b>担当教員</b>	橋本 義則			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
受講生は自らが関心を持つ日本古代史上の種々のテーマについて、具体的な史料を用いながら調査・研究を進め、毎々その成果を報告してもらいます。報告終了後、まず提示された史料解釈の妥当性を中心にして検討を行い、さらにその研究史上における問題や論理の展開などについて討議、検討を加えます。この過程を通じてよりよい修士論文の作成を目指したいと考えています。					
<b>授業の一般目標</b>					
受講生は自らが関心を持つ日本古代史上の種々のテーマについて、具体的な史料を用いながら調査・研究を進め、毎々その成果を報告してもらいます。報告終了後、まず提示された史料解釈の妥当性を中心にして検討を行い、さらにその研究史上における問題や論理の展開などについて討議、検討を加えます。この過程を通じてよりよい修士論文の作成を目指したいと考えています。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 修士論文作成に必要な日本古代史の高度な知識を獲得する。					
<b>思考・判断の観点:</b> 修士論文作成に必要な論理的考察力を獲得する。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 修士論文作成に当たり、自らの興味・関心に基づいて、問題を設定する力をつける。					
<b>態度の観点:</b> 修士論文の作成を通じて、自ら学問上の常識や通説を疑い、解決する姿勢を養う。					
<b>技能・表現の観点:</b> 1, 論文作成に必要な史料を正確に解釈できる。2, 正しい日本語(書き言葉)で自分の意見を論理的に表現できる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
学期末のレポートによって評価する。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
本授業では授業時に受講生全員がパソコンを持ち込み、使用することが必須とされる。また毎回の研究報告発表者はあらかじめワープロソフト(ワード)を用いて報告に必要な配布資料を作成し、授業時に教官および受講生全員に資料をワードのファイルで配布することが義務付けられます。また資料の作成に当たってはスキャナーなどの周辺機器の活用も必要とされる。					
<b>連絡先</b>					
y-hasi@yamaguchi-u.ac.jp 研究室:人文学部3階					
<b>オフィスアワー</b>					
時間のあるときはいつでも					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	2012911006
<b>開設科目名</b>	日本歴史文化論演習			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	~
<b>担当教員</b>	真木 隆行			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>日本中世史に関する史料を輪読すると共に、受講者自身の研究成果報告と質疑をおこなう。  輪読対象の史料に関しては、受講者の関心に応じて選択する。受講者が修士課程の大学院生である場合、修士論文の作成に向けた指導の機会となる。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
史料をより深く読解し、各自の研究をすすめる。					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b>(1)関係史料や先行研究について把握する。  (2)関心ある事象の時代背景を把握する。  <b>思考・判断の観点:</b>史料・先行研究・通説などを独自の視点で捉え直し、自分なりの見解を導き出す。  <b>関心・意欲の観点:</b>関心あるテーマを見つけ、とことん問題を掘り下げる。  <b>態度の観点:</b>一研究者としての専門意識を持つ。  <b>技能・表現の観点:</b>自分なりの見解を論理的にとりまとめ、よりよい報告や論述ができる。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
報告内容と、提出レポートで評価する(修士論文提出年度にあたっている場合には、報告内容のみで評価する)。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
いいい修士論文を読ませてください。					
<b>連絡先</b>					
今年度の研究室名簿を参照					
<b>オフィスアワー</b>					
<p>ご来訪ご質問は、在室時には基本的にいつでも歓迎する。  真木研究室は、人文学部棟4階(415号室)。</p>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	2012911007
<b>開設科目名</b>	中国歴史文化論演習			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	滝野 正二郎			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
史料読解 論文講読を行う。具体的な内容は受講予定者と相談の上、決定する。					
<b>授業の一般目標</b>					
2年次に修士論文を作成するために十分な、問題設定、史料収集・読解、論文収集・読解などの各能力を養成することを目標とする。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 学生自らの研究を遂行するに十分な知識、事項に対する理解力を得る。					
<b>思考・判断の観点:</b> 自らの研究課題について、その根本から思索する。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 自らの内面と社会の両面に関心を持つ。					
<b>態度の観点:</b> 自らの判断で研究を遂行する態度をもつ。					
<b>技能・表現の観点:</b> 自らに必要な史料を収集、操作し、そこから得た知見を論理的な文章で表現できる技能を持つ。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
平素の授業に於ける史料読解などの作業および研究発表と学期末に提出するレポートによって評価する。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
研究室: 人文学部 517、内線 5229、E-mail: stakino@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
月曜 9:10 時限					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	2012911008
<b>開設科目名</b>	西洋歴史文化論			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	~
<b>担当教員</b>	尼川 創二			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>【ロシア革命の考察】19世紀の末に人民主義に代わってマルクス主義がロシアの革命的インテリゲンツィアの心を捉え始めたのはなぜなのか。1902年にレーニンが提起した党組織論はどのような問題点を孕んでいたか。社会主義革命が、資本主義の発達した西欧においてではなく、発展途上国ロシアで達成されたのはなぜなのか。そもそも西欧で社会主義革命を目指す大きな動きが生じなかったのはなぜだろう。レーニンに率いられたボリシェヴィキ党(共産党の前身)がロシアの革命勢力の中心になりえたのはなぜか。同党とロシアの労働者、農民、少数民族との関係はどのようなであったか。同党が革命体制移行過程で逢着した問題はなんであったのか。その革命体制はのちに出現するスターリンの強権的政治体制とどの点でつながり、どの点で断絶しているのか。こうした問題を考えてみたい</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
概要に記したような諸問題の考察を通じて、ロシア革命についての理解を深める。					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b>ロシア革命について知識を得、理解を深める。  <b>思考・判断の観点:</b>ロシア革命の原因・経過・結果について自分で考えてみる。  <b>関心・意欲の観点:</b>ロシアとヨーロッパの歴史に強い関心をもつ。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
授業外レポート100点。無断欠席1回につきマイナス5点。遅刻1回につきマイナス2点。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<p>人文学部4階409号室  amak@yamaguchi-u.ac.jp</p>					
<b>オフィスアワー</b>					
月14:10 - 16:10					



<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	2012911009
<b>開設科目名</b>	西洋歴史文化論演習			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	~
<b>担当教員</b>	尼川 創二			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
前期と同じ。					
<b>授業の一般目標</b>					
前期と同じ。					
<b>授業の到達目標</b>					
知識・理解の観点: 前期と同じ。					
思考・判断の観点: 前期と同じ。					
関心・意欲の観点: 前期と同じ。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
前期と同じ。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
人文学部4階409号室 amak@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
月14:10 - 16:10					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	2012911010
<b>開設科目名</b>	日本歴史文化論			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	~
<b>担当教員</b>	橋本 義則			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>日本古代の喪葬儀礼や喪葬に関わる制度については、考古学や民族学の調査・研究成果を踏まえつつ、主として所謂大化前代を対象に研究が行われ、多くの成果を上げてきました。しかし律令を基本とした古代国家が成立した8世紀以降の喪葬に関する研究はまだ少なく、またそれらの研究は極めて不十分なものでしかないと思われます。本講義では、このような研究の現状に鑑み、まず8世紀の喪葬の具体的な様相について貴族階級を対象をにおいてできる限り明かにし、次いで律令国家の喪葬政策やそれをめぐる政治・社会状況を考えることにしたいと思います。そしてこれらの検討を通じて律令国家の喪葬に対する政策の意図やその変化、さらにそれを推し進め、貴族社会の変化などについても考えてみたいと思っています。昨年度は喪葬のうち「葬」について話しました。一昨年度に引き続き「葬」について話します。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
日本古代の喪葬儀礼や喪葬に関わる制度とその成立の経緯を理解することを通じて、日本古代の貴族社会について理解を深めるとともに、研究上の常識や通説を疑い学問・研究する姿勢を養う。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 古代の喪葬制度とその背景にある政治・社会状況を説明できる。					
<b>思考・判断の観点:</b> 史料や資料を用いて、古代貴族社会の実態を論理的に解釈する能力を身につける。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 古代貴族社会に関心・興味を抱く。					
<b>態度の観点:</b> 学問上の常識や通説を疑う姿勢を養う。					
<b>技能・表現の観点:</b> 1, 古代の史料・資料を博捜し、正しく解釈できる。2, 正しい日本語(書き言葉)で自分の意見を論理的に表現できる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
学期末のレポートによって評価する。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
日本史概説を受講し、飛鳥・奈良・平安の各時代についてやや詳しい知識をもっていることが望ましい。また講義レジュメのダウンロードと受講のためにノートパソコンが必携である。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	2012911011
<b>開設科目名</b>	日本歴史文化論			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	~
<b>担当教員</b>	橋本 義則			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>古代国家の東北辺境支配</p> <p>古代東北地方の辺境には蝦夷とよばれる未服属の民が居住していた。7世紀中 - 9世紀初めの150年間に古代国家はこの辺境地域に版図拡大の政策を展開する。この辺境政策は、古代国家が東日本の人と物資をつぎ込んで取り組んだ大プロジェクトであり、大和政権以来、畿内政権が進めてきた古代国家形成の最終章に当たる。本講では、蝦夷とは何だったのか、古代国家の辺境支配の構造、版図拡大の過程、辺境支配の変容、古代国家における辺境支配の歴史的意義などについて明らかにする。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
7世紀 - 10世紀の東北地方の歴史を、古代国家との関係で理解する。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
出席と定期試験による。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
Mail address:takao@sal.tohoku.ac.jp Tel :022-795-6062					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	2012911012
<b>開設科目名</b>	中国歴史文化論			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	~
<b>担当教員</b>	馬 彪			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<b>授業の一般目標</b>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	2012911013
<b>開設科目名</b>	中国歴史文化論			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	~
<b>担当教員</b>	滝野 正二郎			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
本授業は、担当教員自らの研究の成果を学生に講義する場である。今回は、清代常関をめぐる商品流通を分析し、常関という機関が設置されたことによる流通上の影響について明らかにする。					
<b>授業の一般目標</b>					
(1) 清代の商品流通について一応の知識を得る。					
(2) 清代常関による商品流通の阻害作用と「促進」作用を理解する。					
(3) 清代常関をめぐる商人・民衆の動きを知ることによって制度と民衆のせめぎ合いを理解する。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 清代の商品流通について一応の知識を得る。					
<b>思考・判断の観点:</b> 制度とは上から押しつけられて終いではなく、それを使用するものの対応によって内実が変質していくものであり、そうした生きたものとして思考する。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 制度とは上から押しつけられて終いではなく、それを使用するものの対応によって内実が変質していくものであり、そうした生きたものとして関心をもつ。					
<b>態度の観点:</b> 制度を基底から考えるのではなく、利用の実態から解明する態度をもつ。					
<b>技能・表現の観点:</b> 自らが知り得たこと、認識したことを論理的な文章で表現する技能をもつ。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
学期末に提出するレポートによって評価する。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
漢文史料を紹介しつつ授業を進めるので、漢文史料に興味のある学生の聴講を望む。					
<b>連絡先</b>					
研究室: 人文学部 517、					
電話: 内線 5229、					
E-mail: stakino@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
月曜日 9・10 時限					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	2012911014
<b>開設科目名</b>	中国歴史文化論			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	~
<b>担当教員</b>	馬 彪			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<b>授業の一般目標</b>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	2012911015
<b>開設科目名</b>	西洋歴史文化論			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	~
<b>担当教員</b>	藤永 康政			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
1960年代のアメリカ黒人の運動に関して、史料をもとに考察を深めていく。また多くの映像史料と映画での表象を比較や、現代のアメリカ文化やアメリカ社会への理解を深めながら、「60年代」が今日においていかなる意味をもつのかについて考えていく。					
<b>授業の一般目標</b>					
(1)史料を論理的に且つイマジネーション豊かに解釈していく力を学ぶ					
(2)現代史特有の問題点に関し理解を含める					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 運動の年代記だけでなく、その社会政治経済的背景への理解を深める					
<b>思考・判断の観点:</b> 既存の学説にとらわれることなく斬新的な解釈をする力を身につける					
<b>関心・意欲の観点:</b> 現代社会の諸事情と現代史の関係について理解を深める					
<b>態度の観点:</b> 積極的に発言し、意見を交換することが「知」を拡大するものだという「思考法」を身につける					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
毎回課題の読書箇所を指示し、それに基づいて発言をしてもらう。その発言の内容がもっとも重視される。					
史料を予め読んでこなくて当然質問に答えられるはずがなく、単なる出席は評価しない。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
質問などがあれば気楽にメールで連絡してください。(ただし、冒頭に学年所属氏名を明記すること)					
<b>連絡先</b>					
yfujinag@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	2012911016
<b>開設科目名</b>	西洋歴史文化論演習			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	~
<b>担当教員</b>	藤永 康政			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
アメリカ史が直面している諸問題を批判的に検討する。具体的内容はゼミ参加者の関心にしたがって決定する					
<b>授業の一般目標</b>					
(1)歴史学諸理論の把握					
(2)早く良い先行研究を見つける方法を会得し、良い「問い」のたてかたを学ぶ					
(3)理解した理論をいかに展開していくかを学ぶ					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 現代思想と歴史議論、現代社会と歴史学との関係について理解を深める					
<b>思考・判断の観点:</b> 歴史学理論の展開の仕方を会得し、それに則った論理的思考を身につける					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
授業での報告、ならびに参加者の報告に対する議論等々、積極的な授業参加を求め、そのみを評価基準とする。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
質問などがあれば気楽にメールで連絡してください。(ただし、冒頭に学年所属氏名を明記すること)					
<b>連絡先</b>					
yfujinag@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					



<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	2012911017
<b>開設科目名</b>	日本歴史文化論			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	~
<b>担当教員</b>	篠原 厚			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>近年、政治、メディア、研究においてヨーロッパの地域統合のみならず東アジアの地域統合と地域主義、すなわち東アジア共同体論もますます注目されつつある。2007年、中国の前駐日大使王毅は講演で「新しいアジア主義を模索していく」必要があると宣言し、「100年前のアジア主義」を1955年のバンドン会議、1980年代の「大平総理の環太平洋経済圏」などに直結させた。日本でも「東アジア共同体」、「アジア・コモン・ハウス」などを提唱する学者、評論家、政治家が増えつつある。このように、歴史にルーツを探るアジア統合論の代表的な例を取り上げながら、歴史的なアジア連帯論・アジア主義と現在のアジア統合論の相互関係が研究者によっていかに論じられているかについて考える。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>近年の「東アジア共同体論」などの歴史的背景を理解し、東アジア連帯論の問題点について複数の観点から考え、現在の議論をより適切に理解できることを目指す。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
授業での積極的参加、報告、レポート提出					
<b>教科書</b>					
Pan-Asianism in Modern Japanese History. / Sven Saaler and J. Victor Koschmann (eds): New York and London: Routledge, 2007					
Pan-Asianism. A Documentary History. / Sven Saaler and Christopher W. A. Szpilman (eds): Unpublished collection (will be distributed to the students)					
<b>参考書</b>					
『アジア / 日本』(思考のフロンティアII) / 米谷匡史: 岩波書店, 2007					
『アジア主義』 / 竹内好編: 筑摩書房, 1963					
<b>メッセージ</b>					
プレゼンテーションのテーマを決めるために、かならず授業開始の前、メールにて連絡ください。					
<b>連絡先</b>					
saaler@sophia.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	2012912001
<b>開設科目名</b>	現代社会変動論			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	~
<b>担当教員</b>	小谷 典子			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
産業都市における企業の社会貢献活動とまちづくりに関する日本各地の事例をみながら、住みよいまちづくりを考える					
<b>授業の一般目標</b>					
産業都市の諸問題について考え、身近な都市のまちづくりにたいして、自分なりの考えをもつ					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 産業都市の変化と現状に関する知識を身につける					
<b>思考・判断の観点:</b> 企業組織の実態についての確に判断する					
<b>関心・意欲の観点:</b> 身近な産業都市の現状について関心を持つ					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
授業中に実施する小レポート、出席、最終試験を総合して評価する					
<b>教科書</b>					
企業の社会貢献とコミュニティ / 三浦典子:ミネルヴァ書房, 2004					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
できれば前期・後期続けて受講してください					
<b>連絡先</b>					
5236					
<b>オフィスアワー</b>					
月曜日 14時 15時					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	2012912002
開設科目名	現代社会意識調査論			単位	2単位
対象学生				学年	～
担当教員	辻 正二			区分	
<b>授業の概要</b>					
<p>現代の社会は、グローバル化や情報化等の進行により、産業社会構造そのものが大きく変化して、人間の時間意識の変化を余儀なくされている。現代社会は、社会的時間レベルで見ると、車やパソコンのモデルチェンジにみられるように、生産と消費のスピードがますます加速化しており、人間はそれに適応しなければならないが、実際にはそのなかでますますストレスを背負い、その結果いろいろな病理現象を生みつつある。その一方現代社会は、成熟社会や高齢社会になるにつれ、青年期や高齢期の時間帯が長期化して、青年の中には大人になることを「延長化」し、高齢者は平均寿命の伸びによって高齢期の「延長化」を迎えて、いままで経験しなかったを抱えている。</p> <p>この講義では、現代社会が抱える問題を「時間社会学」のレベルから迫り、今後、時間の視点から現代社会が直面する問題、人間の時間意識の問題について今後どのような方向づけが必要かを考えてみたい。</p> <p>授業の一般目標</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>(1)現代社会の変化を時間学のレベルから研究する視点を学ぶ。</p> <p>(2)青年期と高齢期の対照的な時間帯に共通する時間の長期化を通して現代人が直面する問題が何なのかを学ぶ。</p> <p>(3)時間して視点からの時間政策の方策について考える姿勢を学ぶ。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b>現代社会の時間学的見方に関する知識を学び、時間学のアプローチについて理解することができる。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b>自ら進んで社会的時間や現代社会における時間的思考や判断が出来ること。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b>生活の中で社会的時間に関心を持ち、その現象的理解とともに問題点を意欲的に取り組むことができる。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>社会学的な想像力を養えることができると考えています。</p>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<p>時間学概論 / 辻正二監修・恒星社厚生閣, 2008</p> <p>ケアを問いなおす / 広井良典・筑摩書房</p> <p>やわらかな生命の時間 / 井上慎一・秀和システム, 2006</p>					
<b>メッセージ</b>					
<p>授業は、資料を使って進行しますが、参考書は最低2冊以上は読むようにしてください。</p>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	2012912003
<b>開設科目名</b>	社会生活伝承論			<b>単位</b>	2 単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	~
<b>担当教員</b>	湯川 洋司			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
都合により、平成 21 年度は開講しません					
<b>授業の一般目標</b>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	2012912004
<b>開設科目名</b>	造形伝承論			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	~
<b>担当教員</b>	坪郷 英彦			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
人間の暮らしをものの視点から考察する。文化人類学の物質文化研究、民俗学の民具研究の諸成果を示し、さらに現代の視点からの検討を加えながら授業を進めていきます。今年のテーマとしては生活学・考現学の理論と方法を取りあげる。					
<b>授業の一般目標</b>					
人間が作り出した様々なものを社会的、システムの、技術的に読み解く力を養う。ものを通して現代社会を分析するための目標と方法を理解する。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 基本的理論、用語の説明ができる。					
<b>思考・判断の観点:</b> 日常を機能・システムの視点から読み解くことができる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 消費社会の表層と本質的な部分を読み分けることができる。					
<b>態度の観点:</b> 日常のもの・ことに新たな視点で接することができる。					
<b>技能・表現の観点:</b> 自分の考えを正確に論述できる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
出席と期末レポート及び授業内レポートにより評価します。特に出席と期末レポートを重視します。 出席率が70%以下の場合は評価対象となりません。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
映像やスライドなど画像情報を用いてわかりやすく授業を行います。考現学を体験してみましょう。日常に対する眼が開かれます。					
<b>連絡先</b>					
Email hide.tsu@yamaguchi-u.ac.jp 電話 5239、研究室 213					
<b>オフィスアワー</b>					
木曜日 12:00 ~ 14:00					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	2012912005
<b>開設科目名</b>	現代社会分析論演習			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	~
<b>担当教員</b>	小谷 典子			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
修士論文作成を目指し、社会学の理論や研究方法を学び、現代社会が抱える諸問題について、テキストに基づき、各自レポートし、それぞれの研究課題について議論しながら、現代社会に関する関心を深める。					
<b>授業の一般目標</b>					
修士論文作成を目指し、現代社会の構造と変動を、都市社会に視点をおいて理解する。そこから派生する関心ある社会問題を見つけ出し、社会的な分析方法を身につける					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 現代社会の研究に関する知識と理解を深める					
<b>思考・判断の観点:</b> 現代社会の現状を判断する					
<b>関心・意欲の観点:</b> 現代社会に関する関心を深める					
研究テーマを明確化する					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
出席、課題報告、最終レポートで総合的に評価する					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
5236					
<b>オフィスアワー</b>					
月曜日 14時 15時					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	2012912006
<b>開設科目名</b>	現代社会分析論演習			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	~
<b>担当教員</b>	辻 正二			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
毎回1人づつレポートを発表する形態の授業である。自分の大学院における研究テーマを発展するように指導する授業である。					
<b>授業の一般目標</b>					
(1)レポートの課題を通して専門的な知識を学ぶとともに解釈の仕方やプレゼンテーションの方法について学ぶ。 (2)専門的な知識を深めるとともに議論に参加し、自分の見解を述べる姿勢を身につける。 (3)修士論文作成に向けての研究指導をする。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
毎回の研究レポートの発表(理解度、完成度など)と定期試験であるレポートを総合的に判断して評価する。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	2012912007
<b>開設科目名</b>	現代社会分析論演習			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	~
<b>担当教員</b>	湯川 洋司			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
民俗学上の諸問題について、受講者の希望を聞きつつ、文献講読と討論により理解を深める。					
<b>授業の一般目標</b>					
民俗学上の諸問題について、民俗学的洞察力を養う。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
授業への取組姿勢と授業終了後に作成提出するレポートの評価による。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
yukawa@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					



<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	2012912008
<b>開設科目名</b>	現代社会分析論演習			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	~
<b>担当教員</b>	坪郷 英彦			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
修士論文執筆のための関連文献を読み進めていく。					
<b>授業の一般目標</b>					
基礎理論と研究方法の基本が理解できる。基本的英文文献からの情報の取得					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
各自の自主的研究態度と期末のレポートによって評価する					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
主体的な授業参加を期待します。並行して民俗調査も行います。					
<b>連絡先</b>					
Email hide.tsu@yamaguchi-u.ac.jp 電話 5239 研究室 213					
<b>オフィスアワー</b>					
木曜日 12:00 ~ 14:00					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	2012912009
<b>開設科目名</b>	地域社会計画論			<b>単位</b>	2 単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	~
<b>担当教員</b>	横田 尚俊			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
現代日本における都市政策、地域政策の展開と変容を地域社会学の視点から考察し、その課題について考える。					
<b>授業の一般目標</b>					
1 現代日本における都市政策、地域政策の展開と変容について、理解を深める。 2 地域社会学の視点から、都市政策、地域政策の現状と課題を考察する。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
課題レポート 30% 出席 40% 授業外レポート・報告 30%					
<b>教科書</b>					
日本の都市社会第4巻 都市の諸政策 / 和田清美ほか:文化書房博文社, 2009					
<b>参考書</b>					
日本の都市社会 第1巻~第3巻 / 北川隆吉ほか:文化書房博文社, 2007					
<b>メッセージ</b>					
時間的に余裕があれば、テーマに関連するビデオ映像なども積極的に利用したい。					
<b>連絡先</b>					
メール・アドレス n.y@yamaguchi-u.ac.jp 研究室 人文棟3階307 室					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	2012912010
<b>開設科目名</b>	現代コミュニケーション論			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	高橋 征仁			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
大学院生専用の授業科目として、家族社会学の講義を行う。 受講生には、統計的データを自ら収集し、分析していく能力を求める。					
<b>授業の一般目標</b>					
1.未婚化や晩婚化をめぐる現状と社会学的分析について学ぶ 2.日本における近代家族の形成過程について学ぶ 3.性やジェンダーをめぐる世代間ギャップ、世代内ギャップについて考察する					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
授業内課題4割、学期末レポート6割で評価する。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					
金曜日5・6時限					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	2012912011
<b>開設科目名</b>	現代国際社会論			<b>単位</b>	2 単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	~
<b>担当教員</b>	山本 真弓			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
アジア人がアジアを舞台にしたフィクションとしての映画を分析することで、アジアの多様性を認識すること。アジアという用語への理解と考察を深めること。					
<b>授業の一般目標</b>					
フィクションを通して社会分析を行なう方法と視点を学ぶこと。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
期末試験					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	2012912012
<b>開設科目名</b>	社会調査法演習			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	~
<b>担当教員</b>	横田 尚俊			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>社会調査を企画・実施し、データを分析する能力を養うために、調査方法に関する知識と技法を演習(または実習)形式で実践的に学習する。原則として、共通の調査テーマを設定して調査を実施する予定だが、受講生の人数によっては、受講生自身の修士論文作成とかがかわらせて、調査を企画・設計し実施していく。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>社会調査を企画・実施し、データを収集・分析するための能力を養う。受講生自身が、調査の一連のプロセスを自立して実施できるだけの知識・能力を身につけることを目標とする。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>授業への参加度(調査プロセス・作業への参加) 60% 調査レポート 40%</p>					
<b>教科書</b>					
<p>社会調査へのアプローチ(第2版) / 大谷信介ほか:ミネルヴァ書房, 2005</p>					
<b>参考書</b>					
<p>社会学小辞典 / 浜嶋朗ほか:有斐閣, 1997 社会調査 / 森岡清志:日本評論社, 2000</p>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<p>メール・アドレス n.y@yamaguchi-u.ac.jp 研究室 人文棟3階307室</p>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	2012912013
<b>開設科目名</b>	社会調査法演習			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	~
<b>担当教員</b>	高橋 征仁			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
大学院生を対象として、多変量解析の基本的な考え方について講義を行うとともに、実際の調査データを用いながら、分析及びプレゼンの練習を行う。					
<b>授業の一般目標</b>					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 多変量解析の基本的な考え方について学ぶ</li> <li>2. コンピュータソフトを用いて、実際に多変量解析を行う能力を身につける</li> <li>3. 各自の研究テーマに関して、多変量解析を活用する方法を検討する</li> </ol>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
授業ごとの学習課題4割 学期末テスト6割で評価する					
<b>教科書</b>					
入門 多変量解析の実際 / 朝野ひろ彦: 講談社, 2000					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					
金曜日 5・6時限					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	2012912014
開設科目名	原始文化論			単位	2単位
対象学生				学年	～
担当教員	村田 裕一			区分	
<b>授業の概要</b>					
<p>授業は、講義と演習を取り混ぜた運営スタイルにより構成する。</p> <p>縄文時代から弥生時代への転換過程は、大陸からもたらされた文化要素を様々な形で受容することで成し遂げられる。講義では、特に石器と鉄器という物質文化に注目し、弥生社会の形成過程を概観する。具体的には、日本列島内における大陸系磨製石器の成立とその生産・流通、鉄器の流入と生産、石器から鉄器への転換過程といった問題について探求する。新来の要素の影響下に形成された弥生時代社会の一側面を描き出す。本講義は、上記の総合的テーマで複数年次にわたり継続的に取り組んでいるものであるが、取り扱う個別のテーマ(考古資料および地域)は、毎年・開講学期毎に異なる。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<ol style="list-style-type: none"> <li>事例研究の一つとして、石器と鉄器を軸に描き出した弥生時代社会について学ぶ。</li> <li>遺物および遺構のデータを操作して、社会構造の復元に応用してゆく過程を習得する。</li> <li>学術論文を批判的に読解することで抽出できる問題点から出発し、自らの理論を構築する力を養う。</li> </ol>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b>A. 石器と鉄器を軸に描き出した弥生時代社会の事例を説明できる。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b>A. 学術論文を批判的に読解し批評することができる。</p> <p>B. 考古学の方法論を自分の選んだ考古学的題材に効果的に適用し、自らの考えを論理的に説明できる。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
小テスト・授業内レポート20%、宿題・授業外レポート60%、授業中の発表・資料操作の成果20%。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<p>石器入門事典 - 先土器 - / 縄文 - / 加藤晋平・鶴丸俊明・鈴木道之助: 柏書房, 1991</p> <p>倭人と鉄の考古学 / 村上恭通: 青木書店, 1998</p> <p>考古資料大観 第9巻 弥生・古墳時代 石器・石製品・骨角器 / 北条芳隆・禰宜田佳男監修: 小学館, 2002</p>					
<b>メッセージ</b>					
<p>石器や鉄器などの、個別の遺物について詳細に解説する場合や、あるいは統計的手法の解説を行ったりする場合には、講義内容がやや難しくなることもあるかもしれません。解説のわかりにくいところ、あるいは意図のわかりにくいところなどは、講義時間の内外に関わらずどんどん質問してください。</p>					
<b>連絡先</b>					
E-mail: h-murata@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
水曜日7・8時限					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	2012913001
<b>開設科目名</b>	原始文化論演習			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	~
<b>担当教員</b>	中村 友博			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
考古学の専門的な主題について、模擬的に研究を展開しながら進行する。					
<b>授業の一般目標</b>					
考古学の研究に必要な資質を習得する。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 専門的な文献が検索でき、読めるようになる。					
<b>思考・判断の観点:</b> 専門的な研究の意味づけができるようになる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 興味をもって専門的な研究が遂行できる。					
<b>態度の観点:</b> 研究に集中して向かうことができる。					
<b>技能・表現の観点:</b> プレゼンテーションの技術を習得している。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
発表の内容を評価する。また遺物の見方では、実測図の完成度を評価する。従って、期末試験は実施しない。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
tomo@yamaguchi-u.ac.jp、研究室:人文学部3階					
<b>オフィスアワー</b>					
月曜日;16時10分~17時40分。					



<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	2012913002
<b>開設科目名</b>	原始文化論演習			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	村田 裕一			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
受講生の研究能力を高める訓練を目的とする演習である。受講生自らが設定したテーマにそって研究を進め成果を発表する。授業では、受講生の研究の進捗状況を確認するとともに、考古学的方法論の指導、具体的な資料操作方法についての指導を行う。					
<b>授業の一般目標</b>					
1. 応用的な考古資料の操作方法を習得する。 2. 事例研究を行い、発表、討議することで、プレゼンテーションの技術を高めるとともに、いわゆるディベートの能力を訓練する。 3. 自らが設定した研究テーマを掘り下げ、修士論文につながる研究成果を導き出す。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>技能・表現の観点:</b> A. 考古資料に対して、より効果的な資料操作を行うことができる。 B. 資料操作の過程、結果を図版・分析表などを駆使して説明できる。 C. 資料操作の結果に基づいて論旨を構築・発表できる。 D. 発表に際しての討議で、的確な受け答えができる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
受講者の発表(プレゼン)・授業内での制作作品 100%。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
研究を進展させ、学外の調査研究機関に資料調査に行く機会、あるいは学術研究会等で情報収集を行う機会を多く作ってください。研究は一朝一夕に進展するものではないので、各自の日頃の取り組みが重要です。地道に努力し、多彩な研究分野に興味関心を持って研究を進めてください。研究発表は十分な準備を行い、全力で行ってください。可能であれば、発表者は、パソコンによるプレゼンテーションを取り入れた発表を1回以上行ってください。					
<b>連絡先</b>					
E-mail:h-murata@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
水曜日7・8時限					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	2012913003
開設科目名	芸術論			単位	2単位
対象学生				学年	～
担当教員	田中 均			区分	
<b>授業の概要</b>					
<p>デイドロの美学</p> <p>ドニ・デイドロ(Deni Diderot: 1713-1784)は、『百科全書』の編集・執筆者、美術批評の創始者、近代演劇の提唱者、唯物論哲学者、といった多様な面を持つ思想家です。</p> <p>この授業では、彼の美学に注目し、そこにどのような現代的な意義があるのかを探ります。</p> <p>注意:この科目は「美学」の授業であり、「美術史」の授業ではありません。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
デイドロの美学の基本的な特徴を理解する。					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b>デイドロの美学のいくつかの特徴を挙げることができる。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b>デイドロやその他の思想家のいくつかの議論を読んで、立場の違いを判断できる。</p> <p><b>技能・表現の観点:</b>デイドロの美学について自らの思考を表現することができる。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>中間試験を受験すること、学期末のレポート(下記参照)を提出すること、授業に50%以上出席することが単位認定の必要条件です。</p> <p>レポート題目(予定):美学・芸術学に関する書物、あるいは芸術現象の一つ以上とりあげ、簡潔に紹介した上で、問題提起・批判・補足など、独自の考察を加えること。ただし、その考察を、授業において取りあげた哲学者一人以上と関連づけること。</p> <p>分量:2000字程度</p> <p>注意:レポートは「感想文」や大学入試の「小論文」とは異なります。授業用のハンドアウトだけを読んで思いついたことを書くのではなく、論じたい対象について、自ら本論文などの資料にあたって調べ、それをもとに論理的・批判的な議論を展開することが必要です。</p> <p>(レポートの添削を希望する場合は、最終週の授業の前後(詳しくは授業中に指定します)までに提出して下さい。一週間以内に添削して返却しますので、修正のうえ、再提出して下さい)</p>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<p>デイドロ著作集/デイドロ:法政大学出版局,1976</p> <p>絵画について/デイドロ:岩波書店,2005</p>					
<b>メッセージ</b>					
フランス語の知識は前提としませんが、ある方が望ましいことは言うまでもありません。					
<b>連絡先</b>					
tanakahi@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
木曜12:50～14:20(事前に連絡して下さい)					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	2012913004
開設科目名	芸術論			単位	2単位
対象学生				学年	～
担当教員	藤川 哲			区分	
<b>授業の概要</b>					
この講義では、2009年度開催の展覧会を紹介します。特に、企画趣旨や出品作品、作家について解説します。					
<b>授業の一般目標</b>					
一、幅広い分野の作品に親しむ。 二、各展覧会の企画趣旨について理解する。 三、美術展や美術館の制度と背景について理解する。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 一、基礎的な美術史の用語を理解し、それをを用いて作品を説明できる。 二、企画展、常設展、公募展、巡回展、回顧展、テーマ展などの展覧会を区別できる。					
<b>思考・判断の観点:</b> 展覧会の企画趣旨を読み解き、それに対する自らの考えを述べることができる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 一、国内で開催されている展覧会情報をチェックし、心の琴線に触れた展覧会には実際に出掛けてみる。 二、海外旅行に出掛ける際には、旅先の美術館や美術展を訪れる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
期末試験の成績を基礎として、中間レポートの提出の有無や出席点などを加えて総合的に評価します。詳しくは講義最初のオリエンテーションで説明します。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
五感で恋する名画鑑賞術 / 西岡文彦: 講談社, 2003 なにも見ていない / ダニエル・アラス: 白水社, 2002 現代美術館学 / 並木誠士ほか編: 昭和堂, 1998 なぜ、これがアートなの? / アメリア・アレナス: 淡交社, 1998 増補版 美の裏方 / 朝日新聞マリオン編集部編: ぺりかん社, 1993					
<b>メッセージ</b>					
特殊講義ですが、普通講義並みにわかりやすい内容を心がけています。これまであまり美術館に足を運んだことがなかった、という人こそ、受講してみてください。美術展を見るのが楽しくなります。					
<b>連絡先</b>					
fujikawa@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
人文学部の研究室 417 にて水曜日午後					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	2012913005
<b>開設科目名</b>	芸術論演習			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	~
<b>担当教員</b>	藤川 哲			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
各自の研究に関係のある論文を紹介してもらいます。レジュメ作成のこと。外国語文献の場合は、訳文作成をお願いします。授業は、発表内容に対する討議を中心とします。					
<b>授業の一般目標</b>					
専門的かつ横断的な視野と思考力を獲得する。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 自らの研究課題の解明に必要な専門的知識を習得する。					
<b>思考・判断の観点:</b> 自らの研究課題をめぐって幅広い視野から多面的に考え抜く。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 適切な課題設定を行い、解決に向けた最適な筋道を構想した上で、それを着実に実現できる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
発表内容と期末レポートによって評価します。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
専門的な知識を身につけましょう。					
<b>連絡先</b>					
fujikawa@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
人文学部の研究室 417 にて水曜日午後					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	2012913006
<b>開設科目名</b>	芸術論演習			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	~
<b>担当教員</b>	田中 均			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
この授業では、美学の基本的文献として、カント『判断力批判』を原語で講読します(英訳・仏訳も適宜参照します)。					
<b>授業の一般目標</b>					
原語で文献を読むことの意義について考える。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> カントの美学理論のいくつかの論点を説明することができる。					
<b>思考・判断の観点:</b> カントとその他のいくつかの美学理論の違いを判断できる。					
<b>技能・表現の観点:</b> 美学の基本的な問題について自らの思考を表現することができる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
受講者の報告内容に従って採点します。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
tanakahi@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
木曜 12:50 ~ 14:20(事前に連絡して下さい)					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	2012914001
開設科目名	現代社会意識調査論			単位	2単位
対象学生				学年	～
担当教員	辻 正二			区分	
<b>授業の概要</b>					
<p>少年犯罪、いじめ、ひきこもり、リストカットなどの青少年の諸問題を糸口に、ケータイ依存、トラウマ、キャラ志向といった近年の特徴を考慮に入れつつ、現代の人間関係の特徴とそれがもたらす現代に特有の「生きづらさ」について考察する。とくに、公共圏に対する意識の変化、再帰的近代化の進行、社会の心理学化といった知見を取り入れながら、逸脱論の観点から社会的に考察を進める。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>青少年をめぐる近年の諸問題から見えてくるのは、親密な人間関係の過剰な重さである。従来からのいじめ事件においてだけでなく、普段から親友と呼んでいたほど仲のよかった友だち同士が加害者と被害者の関係へと突然に転じてしまった事件にも、あるいはオヤジ狩りのように友だち同士でつるんで大人を襲うといった諸事件にも、その様子はうかがえる。</p> <p>近年の青少年は、友だちや家族など親密圏の人間関係に異様なほど配慮している。そして、その傷つきやすい人間関係をマネージメントしていくことに何よりも優先性を認め、莫大なエネルギーをそこに注ぎ込んでいる。しかし、その危うい関係の維持運営に腐心するあまり、親密圏の外部にいる人間に対してはほとんど無関心となっているようにも見受けられる。また、本来ならそこに生じる軋轢を無理に抑え込んだ関係の不安定さが、暴発的な破綻となって表われている場合も見受けられる。</p> <p>では、近年の青少年たちの親密圏がかくも重いものへと変質してしまったのはなぜだろうか。親密な他者との関係を相対化できず、対立を認めない言わば「優しい関係」の専制に追いつめられているのはなぜだろうか。このような傾向は、きわめて内閉的に「個性的な自分」を希求するという近年の彼らのメンタリティの特徴と、一見は正反対の動きのように見えるものの、じつは大いに関係しているのではないだろうか。本授業の中心的なテーマはこの両者の関連を解明することにある。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b>現代社会を分析するための社会学的な知識を習得する。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b>現代社会を考えるための社会学的な思考の訓練を行なう。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
集中講義ですので、理解と関心度などを評価したいと思います。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	2012914002
<b>開設科目名</b>	社会調査法演習			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	~
<b>担当教員</b>	山本 真弓			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
この授業は、日本以外の国に生きる人々の歴史を、オーラル・リサーチの手法を使って研究する手法とその成果の表現方法について扱う。まず、日本国内の場合には問題にならない出入国等の行政的手続きや政治情勢が、調査の動向やテーマ選択、ひいては調査の視点そのものをも左右しかねないほど大きな問題であることを押さえる。また、調査者の言語能力、生活能力(衣食住の条件など)が大きな意味をもつことも確認する。そのうえで、具体的な調査の過程とそこで得られた成果の分析、評価、解釈、そして報告に際しての道義的責任などについて考察する。					
<b>授業の一般目標</b>					
現代史を、その真っ只中を生きてきた人々の<語り>、個人的な記憶(忘却と捏造)と経験を人々の口から導き出すことで、公文書や、教科書的な公けの歴史とは異なる動的なものとして捉えることを目的とする。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
出席、授業への参加度、期末試験の3つを総合的に評価する。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	2012920001
<b>開設科目名</b>	日本語論			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	~
<b>担当教員</b>	林 伸一			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
前期の授業概要に準ずる					
<b>授業の一般目標</b>					
前期に同じ					
<b>授業の到達目標</b>					
知識・理解の観点:前期に同じ					
思考・判断の観点:前期に同じ					
関心・意欲の観点:前期に同じ					
態度の観点:前期に同じ					
技能・表現の観点:前期に同じ					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
前期に準ずる					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
前期に同じ					
<b>連絡先</b>					
前期に同じ					
<b>オフィスアワー</b>					
前期に同じ					



<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	2012920002
<b>開設科目名</b>	日本語論			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	~
<b>担当教員</b>	磯部 佳宏			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>～日本語の構文論～</p> <p>「時枝文法、以降の代表的な文法論である「渡辺文法」を中心に扱いつながら、先行の文法論と比較対照することにより、日本語の文法的特色について考察を加える。さらに、その後の「北原文法」についても触れる。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
日本語を構文論の立場で考えることにより、日本語の文法の諸問題について深く考察する。					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b>「渡辺文法」に関する基本的な知識が身につけているかを判断する。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b>構文論的な視点に基づいて、日本語の文法に対する思考力を判断する。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b>授業に対する取り組みを判断する。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
期末試験を主たる評価の対象とする。					
<b>教科書</b>					
国語文法論 / 渡辺実: 笠間書院					
<b>参考書</b>					
<p>国語構文論 / 渡辺実: 塙書房, 1971</p> <p>日本語助詞の研究 / 北原保雄: 大修館書店, 1981</p> <p>日本語の世界6 / 北原保雄: 小学館, 1981</p>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	2012920003
<b>開設科目名</b>	日本語論演習			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	林 伸一			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>授業の概要</p> <p>前期概要に準ずるが、その発展として、修士論文の内容の吟味をする  実際に修士論文の一部を取り出し、できれば学会発表をするための準備をする</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>授業の一般目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1、学会発表を想定して、発表申請書を作成する。</li> <li>2、学会発表のためのハンドアウトを作成する。</li> <li>3、学会発表のリハーサルをゼミで実施する。</li> <li>4、指摘された不十分な点を補い、内容を修正する。</li> <li>5、学会発表の積み重ねで、修士論文を作成する。</li> </ol>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b> 1、先行研究の知識と理解</p> <p>2、仮説と検証の関係</p> <p><b>思考・判断の観点:</b> 思考・判断の観点:</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1、独話論の世界に入り込んでいないか</li> <li>2、序論－本論－結論といった論文の構成の適否</li> </ol> <p><b>関心・意欲の観点:</b> 前期に準じる</p> <p><b>態度の観点:</b> 前期に準じる</p> <p><b>技能・表現の観点:</b> 技能・表現の観点:</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1、図や表の処理の技能</li> <li>2、文章表現能力</li> </ol>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>成績評価方法(総合)</p> <p>出席と発表を重視し、テストは行なわない。</p>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
前期に同じ					
<b>連絡先</b>					
前期に同じ					
<b>オフィスアワー</b>					
前期に同じ					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	2012920004
<b>開設科目名</b>	日本語論演習			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	~
<b>担当教員</b>	磯部 佳宏			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>~ 日本語の文法・語彙・待遇表現(2) ~</p> <p>日本語の文法・語彙・待遇表現に関して、受講者は研究テーマを定め、調査を行い、資料を作成して発表を行う。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
日本語の文法・語彙・待遇表現に関する基本的な知識を身に付け、修士論文作成に向けて、研究テーマを定め、調査を行い、資料を作成して発表を行う。					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b>問題点の設定と取り組み。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b>発表資料のまとめ方。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b>質疑応答への参加度。</p> <p><b>技能・表現の観点:</b>口頭発表における技術・表現。</p> <p>資料・参考文献の取り扱い方。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>授業時の口頭発表。</p> <p>質疑応答への参加度。</p> <p>期末レポート。</p>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	2012920005
<b>開設科目名</b>	日本文学論			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	~
<b>担当教員</b>	森野 正弘			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
中古文学作品を対象として、研究史のうえで営まれてきた様々な読解を紹介しつつ、そこで提起された諸問題について検討を加える。					
<b>授業の一般目標</b>					
中古文学作品を研究するうえで必要な知識の習得、及び理解力・分析力・論理的思考力を養成する。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 中古文学作品に書かれた内容を正確に読み取るための知識を得ることができる。					
<b>思考・判断の観点:</b> 中古文学作品に書かれた内容や研究論文を通じて多面的な物の見方・考え方ができるようになる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
期末試験による。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
新編日本古典文学全集『源氏物語』(全6冊)/阿部寿生ほか:小学館,1995					
源氏物語事典/林田孝和ほか:大和書房,2002					
源氏物語の鑑賞と基礎知識(全43冊)/鈴木一雄監修:至文堂,1998					
人物で読む源氏物語(全20冊)/上原作和・編集:勉誠出版,2005					
角川文庫ソフィア『源氏物語・付現代語訳』(全10冊)/玉上琢彌:角川書店,1998					
<b>メッセージ</b>					
出席状況80%未満の者は欠格とします。					
<b>連絡先</b>					
morino@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
水曜日5・6時限					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	2012920006
開設科目名	日本文学論			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	尾崎 千佳			区分	
<b>授業の概要</b>					
<p>[連歌師の紀行文 西山宗因『奥州塩竈記』を読む]近世前期を代表する連歌師・俳諧師 西山宗因の紀行文を精読する。『奥州塩竈記』は、五十八歳の宗因が、寛文二年(1662)七月、奥州岩城平藩主・内藤忠興の城下を訪ね、そのまま江戸に出て越年するまでの、約半年間の動静を綴った作品である。本作には宗因自筆本(もしくはその忠実な写本)が五本も存在し、しかもひとつとして同じ本文ではない。諸本の検討を経て、古典引用のあり方に留意しながら作品世界を読み解き、『奥の細道』に約三十年先だって成立した本作の到達点を把握してみたい。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1.連歌師 / 俳諧師の文章の型と主題を理解する。</li> <li>2.諸本研究の意義を理解する。</li> <li>3.近世文学における古典引用の意義を理解する。</li> <li>4.研究上の問題設定と論証のあり方の例に触れ、みずからの修士論文への備えとする。</li> </ol>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b>1.本文を校合し校異について考察することができる。</p> <p>2.近世文学作品における古典引用について指摘することができる。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b>1.連歌師 / 俳諧師の文章について、示される解釈に沿って精読することができる。</p> <p>2.研究上の問題設定と論証のあり方を習得する。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
各人がみずからの課題を設定して論述する形式の期末テストによって評価する。4回の無断欠席でその受験資格を失う。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
研究室: 人文 508 電話: 933-5257 E-mail: ozaki@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	2012920007
<b>開設科目名</b>	日本文学論			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	~
<b>担当教員</b>	中原 豊			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
日本の近代詩を代表する詩人である中原中也の詩を、近代詩の歴史の中で捉える。					
<b>授業の一般目標</b>					
詩の本質と表現の特徴を理解し、日本の近代詩の歴史の概略をふまえた上で、中原中也の詩のもつ特質を理解する。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 詩の表現、日本の近代詩、および中原中也の詩の特質を理解する。					
<b>思考・判断の観点:</b> 言葉によって形成されるイメージについて自覚的になり、さらにそれを拡充していく。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 進んで講義で扱う詩人および他の詩人の詩を読もうとする。					
<b>技能・表現の観点:</b> 自身の抱くイメージを自分なりの言葉で表現できる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
小レポートの内容および期末試験の得点から総合的に判断する。					
<b>教科書</b>					
中原中也全詩集:角川ソフィア文庫, 2007					
<b>参考書</b>					
詩とは何か / 嶋岡農:新潮社, 1998					
<b>メッセージ</b>					
講義で取り上げる詩を読んでおいてください。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					
中原中也記念館(山口市湯田温泉 1-11-21 083-932-6430)					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	2012920008
<b>開設科目名</b>	日本文学論演習			<b>単位</b>	2 単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	~
<b>担当教員</b>	平野 芳信			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
本年度は受講生と相談の上、内容を決定する。					
<b>授業の一般目標</b>					
できれば、一人の作家がどのようにして、自己の個人様式を確立させていくかという問題を検証したい。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
授業態度・授業への参加度 30%					
受講者の発表(プレゼン)・授業内での制作作品 30%					
演習 30%					
出席 10%					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
個人研究室 933 - 5262					
y-hirano@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
追って、指示します。					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	2012920009
<b>開設科目名</b>	日本文学論演習			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	~
<b>担当教員</b>	森野 正弘			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
中古文学作品の研究					
<b>授業の一般目標</b>					
中古文学作品を研究するうえで必要な知識の習得、及び理解力・分析力・論理的思考力などを養成する。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 中古文学作品に書かれた内容を正確に読み取るための知識を得ることができる。					
<b>思考・判断の観点:</b> 中古文学作品に書かれた内容や研究論文を通じて多面的な物の見方・考え方ができるようになる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 自発的に中古文学作品を読み進め、関連する事項について調査・研究することができるようになる。					
<b>態度の観点:</b> 中古文学作品に提起されている問題を主体的に考え、自ら探究することができるようになる。					
<b>技能・表現の観点:</b> 考察した結果を文章や口頭で適切に表現できるようになる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
発表内容とレポートによる。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					
水曜日 5・6時限					



<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	2012920010
<b>開設科目名</b>	日本文学論演習			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	~
<b>担当教員</b>	尾崎 千佳			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
作品作家の選定・研究史の把握と整理・問題の設定について、各自の研究計画に即して指導する。					
<b>授業の一般目標</b>					
修士論文作成のための具体的な方法習得を目的とする。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 1. とりあげる作家や作品を選定することができる。					
2. 先行研究を収集し整理することができる。					
<b>思考・判断の観点:</b> 1. 研究史を把握し問題を提起することができる。					
2. 論文テーマをみずから設定することができる。					
<b>技能・表現の観点:</b> 1. 選定した作家や作品の指摘位置づけについて、適切に説明することができる。					
2. 研究史とその問題点について、適切に説明することができる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
授業中の口頭発表や提出レポートにより評価する。試験は行わない。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
研究室: 人文 508 電話: 083-933-5257 E-mail: ozaki@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	2012920011
<b>開設科目名</b>	日本文学論			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	~
<b>担当教員</b>	平野 芳信			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
村上春樹について、その作家像と作品を絡めて、講述します。					
<b>授業の一般目標</b>					
ノーベル賞の呼び声も高い日本を代表する小説家村上春樹の1980年代の活動を中心に論述することになるかと思えます。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
定期試験(中間・期末試験) 80%					
出席 20%					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
極力、春樹の作品を読んで下さい。					
<b>連絡先</b>					
個人研究室 933 - 5262					
y-hirano@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
追って、指示します。					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	2012921001
<b>開設科目名</b>	中国語論			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	更科 慎一			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>明清代の中国や同時代の周辺国において、漢語と漢語以外の言語の対音・対訳文献が多数作られた。これらの文献は、中国語学の研究資料として魅力の大きいものだが、対訳という性質上とつきづらいいこともまた事実である。本授業では、19世紀末の朝鮮で作られた漢語会話教科書『華音撮要』を取り上げ、その漢語の音韻・語彙・文法的特徴を分析してゆく。授業では朝鮮語を扱うが、受講者に朝鮮語の知識は必要ない。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>(1)19世紀末の朝鮮における漢語学習の実態について理解する。  (2)19世紀末の中国北方漢語の音韻、語彙、文法の特徴について理解する。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 1.明清代中国や同時期の朝鮮における多言語学習の実態について、自身の研究の観点から説明できる。					
2.近代から現代に到る漢語の変化について説明できる。					
3.干渉や類推など、対音対訳資料に特有の非母語話者の言語現象について指摘できる。					
<b>思考・判断の観点:</b> 1.非母語話者が記述した資料に基づいて言語を研究することの意味を十分に理解し、これを自身の研究と結びつけることができる。					
<b>技能・表現の観点:</b> 1.異体文字を一定の方式に基づいたローマ字に転写することができる。					
2.韻書などを使って、漢字の音韻的地位を検索することができる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
受講者の授業内発表をもとに成績評価を行う。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
人文研究棟516室					
電話:083-933-5250					
<b>オフィスアワー</b>					
月曜日 12:50-16:00					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	2012921002
<b>開設科目名</b>	中国語論演習			<b>単位</b>	2 単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	~
<b>担当教員</b>	富平 美波			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
前期の授業に引き続き、中国語音韻学に関連する内容の文献を講読しつつ、同分野の基本的知識の習得と問題点に関する考察を行う。取り扱う領域や講読文献に関しては、受講者と相談の上決定することも可能であるが、担当者としては前期に引き続き、明・清時代の音韻学文献からの講読を考えている。最後に、各自研究テーマを決めてレポートを作成する。					
<b>授業の一般目標</b>					
中国語音韻学に関する基本的知識をマスターするとともに、中国語学関連文献の読解力と、問題点への考察力を養う。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 1. 中国語音韻学の基本知識をマスターする。					
2. 文献資料の内容が正しく理解できる。					
<b>思考・判断の観点:</b> 中国語に見られる特定の事象に関して、正しい考察・判断ができる。					
<b>技能・表現の観点:</b> 自身の研究成果を、レポートの形式により効果的に報告できる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
授業中の課題の達成度と学期末のレポート、授業中の考察・討論への参加度によって総合的に評価する。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
人文学部 5 階 515 tel: 933-5251					
<b>オフィスアワー</b>					
月曜日: 12:50 ~ 14:20					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	2012921003
<b>開設科目名</b>	中国文学論			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	阿部 泰記			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
包拯伝説の歴史的展開について講じる。包拯は北宋時代の官吏で、毅然とした態度で奸臣に立ち向かいその野望を挫いたため、民衆に慕われてその業績が文学に取材されて伝説的な人物となり、現代中国でも「包公」と言えば知らない人はいないし、崇拜の対象ともなっている。本講義ではこうした文学を媒体とした包拯の伝説を具体的に紹介していくとともに、関連した伝説、信仰、民俗について受講者が自主的に研究する方法を伝授する。					
<b>授業の一般目標</b>					
1.中国の政治と文学の関係について理解を深める。 2.伝説が文学を媒体として拡散することを理解する。 3.伝説が事実として認識される事象について理解する。 4.中国の物語のジャンルについて知る。 5.伝説と信仰との関係について考える。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 1.包拯という人物の業績について知る。 2.包拯の伝説に取材した文学を知る。 3.包拯を祀った廟の分布を知る。					
<b>思考・判断の観点:</b> 1.民衆がなぜ包拯を慕うのかを考える。 2.民衆にとって文学とは何かを考える。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 1.包拯について図書館で文献を調べてみる。 2.インターネットで包拯に取材した文学や包公廟について検索してみる。					
<b>態度の観点:</b> 1.授業を真剣に聞く態度をやしなう。 2.授業の内容をノートする態度をやしなう。					
<b>技能・表現の観点:</b> 1.手際よくノートする訓練をする。 2.中国のインターネットを検索する能力を身につける。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
1.出席・レポート提出ができない者は評価の対象外である。 2.どれだけ授業を理解できたかを評価の基準とする。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
包公伝説の形成と展開 / 阿部泰記: 東京: 汲古書院, 2004 中国の公案小説 / 莊司格一: 東京: 研文出版, 1988					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
abey@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	2012921004
開設科目名	中国文学論演習			単位	2単位
対象学生				学年	～
担当教員	根ヶ山 徹			区分	
<b>授業の概要</b>					
古代漢語で書かれた原文を読解し、分析する能力を養うことを目標とする。					
<b>授業の一般目標</b>					
古代漢語で書かれた原文を読解し、分析する能力を養うことを目標とする。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 中国戯曲演劇史のなかでの、作品の位置づけを理解する。					
<b>思考・判断の観点:</b> 作品の主題を的確に把握できる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 明代の白話文学の特質について関心をいだく。					
<b>態度の観点:</b> 出典などについて、適切に調べることができる。					
<b>技能・表現の観点:</b> 本文・注釈についての解釈を、適切に発表することができる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<b>教科書</b>					
六十種曲評注 / 黄竹三・馮俊傑: 吉林人民出版社, 2001					
全元曲 / 徐徵・張月中・張聖潔・爰海: 河北教育出版社, 1998					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	2012922001
<b>開設科目名</b>	英米語論			<b>単位</b>	2 単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	~
<b>担当教員</b>	太田 聡			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
日英語の語形成・形態論に関連したトピックスを論じていきます。「語は暗記するもの」とわれがちですが、暗記していなくても、一定の法則に従って新語を生み出していくことができるものです。そうした語形成の法則について学びましょう。					
<b>授業の一般目標</b>					
語形成に関する法則や制約を知り、それらを使って、可能な語と不可能な語の区別や説明ができるようになる。日本語と英語の語形成に関わる共通原理を理解して、語構造の説明に利用できるようになる。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 語形成に関する諸制約、および、日英語の語形成での共通原理などを理解する。					
<b>思考・判断の観点:</b> 可能な語と不可能な語の区別ができるようになる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 新造語や無意味語などの容認可能性や適格性についても述べるようになる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
各トピックの説明が終わるごとに小課題を出し、また、期末レポートも課して、それらの出来具合によって評価する。欠席は1回につき5点減点とする。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
ohta@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	2012922002
<b>開設科目名</b>	英米語論演習			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	~
<b>担当教員</b>	岩部 浩三			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
英語学の専門文献を読み、その内容を理解し、プレゼンテーションを行う。論文のテーマについては、各自の研究題目に応じて指示する。					
<b>授業の一般目標</b>					
英語で書かれた専門論文の読解能力を養い、わかりやすく説明できるプレゼンテーション技術を身につける。英語学の基礎的概念を理解する。自分の関心に基づいて研究テーマを絞りこみ、修士論文執筆の準備をする。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 英語学の基礎的概念を理解し、例を用いて説明できる。					
<b>思考・判断の観点:</b> 論文中の不明な箇所を特定し、調べることができる。質問して解決できる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 内容を発展させ、問題点を発見して解決しようとする意欲を持つ。具体的な研究テーマを定めて研究できる。					
<b>技能・表現の観点:</b> 専門論文を自力で読み進める英語力・専門基礎力を身につけている。論理的な議論を組み立てレポートを書くことができる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
演習を通じて、読解力を評価する。プレゼンテーションを通じて、技術表現力、知識・理解力を評価し、思考判断力と関心意欲、課題解決能力を総合的に評価する。また、各自の研究テーマに応じたレポート提出を求める。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
iwabe@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
金曜日 12:50-14:20 メールで事前にご連絡ください					



<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	2012922003
<b>開設科目名</b>	英米語論演習			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	~
<b>担当教員</b>	太田 聡			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
日英語の音韻・形態構造について論じた代表的な論文を精読していく。					
<b>授業の一般目標</b>					
日英語の音韻・形態構造に関して、これまでどのような分析がなされ、どのような理論が提唱されてきて、何が解明され、何がまだ解明されていないか、を理解する。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 日本語と英語の音韻・形態構造に関して従来提唱されてきた分析法や理論的内容をきちんと理解する。					
<b>思考・判断の観点:</b> 論文の中で提唱されている理論や分析方法の矛盾点にも気づく。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 問題・矛盾のある箇所を発見した場合に、それを解決するために、代案を考えるようにする。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
演習と期末レポートの出来具合によって評価する。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
ohta@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	2012922004
<b>開設科目名</b>	英米語論演習			<b>単位</b>	2 単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	~
<b>担当教員</b>	赤羽 仁志			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
ミニマリスト・プログラムの最近の枠組みについて概観する。					
<b>授業の一般目標</b>					
英文テキストを講読しながら、現行の生成文法の枠組みであるミニマリスト・プログラムにおける統語論の議論を理解する。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> ミニマリスト・プログラムにおける諸概念、および理論の展開過程を理解する。					
<b>思考・判断の観点:</b> 論理的且つ緻密な思考ができる。					
<b>態度の観点:</b> 言語現象について科学的に説明する態度を身に付ける。					
<b>技能・表現の観点:</b> 口頭および文章により専門的な議論ができる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
授業への参加(発表・討論)とタームペーパーにより評価する。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
Introducing Arguments / Liina Pyllkkanen: MIT Press, 2008					
Where Does Binding Theory Apply? / David Lebeaux: MIT Press, 2009					
Locality in Minimalist Syntax / Thomas S. Stroik: MIT Press, 2009					
InterPhases: Phase-theoretic Investigations of Linguistic Interfaces / Kleanthes K. Grohmann: Oxford Univ Pr, 2009					
The Derivation of Anaphoric Relations / Glyn Hicks: John Benjamins Pub Co, 2009					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
akahane@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
特に設けず、アポイントメントによる。					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	2012922005
<b>開設科目名</b>	英米文学論			<b>単位</b>	2 単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	~
<b>担当教員</b>	宮原 一成			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
20 世紀、特にその後半の英語圏文学において、とみに急増した「現在時制の語り」を用いた作品について、その文体的効果を、個別的そして包括的に考えていきます。					
<b>授業の一般目標</b>					
文章の内容ばかりでなく、その文体にも目配りすることで、文学というコミュニケーションのあり方や背景的状况について深く考察できるようになる。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 現行の基本的な時間論、文体論、及び現代英文学作品の基礎知識を把握している。					
<b>思考・判断の観点:</b> 文体の効果について理論を立て、もしくは先行研究を適切に取舍選択し、自分なりの一貫した思考を紡ぐことができる。					
<b>態度の観点:</b> 継続して課題に取り組む姿勢をもつ。					
<b>技能・表現の観点:</b> 思考結果を、首尾一貫した日本語論説文形式で表現できる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
数回の小レポートと、学期末筆記試験。無断欠席が三回を超えると、単位は出さない。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
miyahara@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
初回授業時に知らせます。					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	2012922006
<b>開設科目名</b>	英米文学論			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	~
<b>担当教員</b>	皆尾 麻弥			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
Nathaniel Hawthorne(1804-1864)の短編を読む。					
<b>授業の一般目標</b>					
『緋文字』等の長編小説が有名である Hawthorne であるが、その短編もまた、同時代の作家であるメルヴィルやポーによって高く評価された。格調高い文章の凝縮した彼の短編を丹念に読むことによって、彼が生涯持ち続けたテーマ、彼の作品の特徴などを、考察する。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 作品の具体的内容を理解する。					
<b>思考・判断の観点:</b> 作家が一つ一つの言葉にこめた思いを正確に捉える。文章の裏に隠された意味を考えて読む。					
<b>関心・意欲の観点:</b> Hawthorne の作品を積極的に読む。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
学期末にレポートを提出					
<b>教科書</b>					
Selected Tales and Sketches / Nathaniel Hawthorne: Penguin					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	2012922007
<b>開設科目名</b>	英米文学論演習			<b>単位</b>	2 単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	~
<b>担当教員</b>	宮原 一成			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
現代英国系作家の小説を数本読む。一本目は Penelope Lively 著, Consequences (ただし、受講生との相談で教材を変える可能性あり)。					
<b>授業の一般目標</b>					
小説作品について、専門的な議論をする力を養う。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 原文をまず英語として正確に理解する。					
心理描写、社会風俗描写を正しく理解する。					
<b>思考・判断の観点:</b> 作品の訴えかけるものについて、自分なりの批評的所見を形成する。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
発表の出来具合 + 討論への貢献度。3回以上欠席したら、不可。					
<b>教科書</b>					
Consequences / Penelope Lively					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
受講予定者は前期終了後早めに担当教員に連絡すること。教科書の手配は担当教員が行う。					
<b>連絡先</b>					
miyahara@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	2012922008
<b>開設科目名</b>	英米文学論演習			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	~
<b>担当教員</b>	池園 宏			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
20世紀イギリスの小説家 E.M.Forster の『Howards End』及びこの作品に関する論文を読む。					
<b>授業の一般目標</b>					
テキストと論文を読む作業を通して、Forster の作家像及び20世紀初頭英文学における位置づけを理解する。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 作家や作品、及び関連する論文の具体的内容を説明できる。					
<b>思考・判断の観点:</b> 作品に盛り込まれた諸テーマを、自分なりの視点で分析できる。					
<b>態度の観点:</b> 常に問題意識を持って議論に参加できる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
(1)本作品について4000-5000字程度のレポートを作成し、提出する。					
(2)出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。					
<b>教科書</b>					
Howards End / E.M.Forster: Penguin, 1992					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
ikezono@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	2012922009
<b>開設科目名</b>	英米文学論演習			<b>単位</b>	2 単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	~
<b>担当教員</b>	皆尾 麻弥			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
Vladimir Nabokov(1899 - 1977)の小説 Glory を読む。					
<b>授業の一般目標</b>					
Nabokov のロシア語による小説の第一作目に当たるこの作品には、後のこの作家の作品の基礎となるようなテーマや、作家の生涯にわたる関心事が盛り込まれている。この小説を通してナボコフの作家像を把握する。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 小説の具体的内容を理解する					
<b>思考・判断の観点:</b> ひとつひとつのことば、表現を大切に、そこにこめられた意味を丁寧に考える					
<b>関心・意欲の観点:</b> 疑問に思ふ点については詳細に調べ、考えてみる習慣をつける					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
毎回の授業の取り組みによる					
<b>教科書</b>					
Glory / Vladimir Nabokov: Penguin Books Ltd; New Ed 版					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	2012923001
<b>開設科目名</b>	ドイツ語論			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	~
<b>担当教員</b>	下寄 正利			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
ドイツ語の特徴を、英語と比較しつつ、様々な観点から論じてゆく。					
<b>授業の一般目標</b>					
ドイツ語の特徴について理解しているとともに、ドイツ語学の基本的なところがある程度身に付いている。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> ドイツ語の特徴について理解しているとともに、ドイツ語学の基本的なところがある程度身に付いている。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
期末テストにより評価する。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					



<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	2012923002
<b>開設科目名</b>	ドイツ語論演習			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	~
<b>担当教員</b>	本田 義昭			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
ドイツ語学の専門文献を、論の展開の仕方などに注意しながら読んで行きます。					
<b>授業の一般目標</b>					
ドイツ語学の専門文献を批判的に読みこなせる能力を養う。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> ドイツ語学の専門的知識をさらに深める。					
<b>思考・判断の観点:</b> 論の展開を把握する。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 広く言語現象への関心を深める。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
平素の学習、特に授業への積極的参加を重視します。次のいずれかの場合は失格とします。1)最初の6回中3回欠席, 2)連続3回欠席, 3)通算4回欠席。 「演習」の観点は「授業態度・授業への参加度」および「受講者の発表(プレゼン)・授業内での制作作品」で評価します。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
文章も内容も平易ではないので、十分に予習して授業に臨んでください。					
<b>連絡先</b>					
honda@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	2012923003
開設科目名	ドイツ文学論			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	HINTEREDER EMDE FRANZ			区分	
<b>授業の概要</b>					
宮崎駿の『アルプスの少女ハイジ』は、日本人なら誰でも知っているし、世界的に有名なアニメ作品です。原作の『ハイジの修業時代と遍歴時代』(1880年)は、典型的な児童文学の作品ですが、スイスのドイツ語文学としては殆ど意識されていません。原作のタイトルは、ドイツの文豪ゲーテの代表作『ヴィルヘルム・マイスターの遍歴時代』と意識したものです。そうすると、『ハイジ』はある意味においては、教養小説の伝統をついでいる作品でもあります。					
<b>授業の一般目標</b>					
この講義では、アニメの映像(さらに可能なら他のものも含めて)も取り入れて、原作と比較しながら、「スイス」という文化的なイメージと現実のドイツ語圏の文化空間について話します。勿論、他のスイスの作家達(ケラ、フリッシュ、ヴァルザーなど)の作品にも触れることがあります。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 19世紀や世紀末の中央ヨーロッパの思想・宗教・文学などの文化的な背景を把握することができる。					
<b>思考・判断の観点:</b> 原文や周辺資料の解読によって、その時代や文化的な実体を理解する。					
<b>関心・意欲の観点:</b> スイスやドイツ語圏の文学への関心をもって、文化的なイメージや文化の現状について学ぶ。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
授業ないレポート(感想文):40%、宿題・授業外のレポート:40%、参加や出席:20%					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
電話 933 - 5687 mail emde@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
月曜日 12:50 ~ 14:20					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	2012923004
<b>開設科目名</b>	ドイツ文学論演習			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	~
<b>担当教員</b>	坂本 貴志			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
前期に行う「モーセ五書」読解を受けて、モーセに関する考察を行った文献を読む。					
<b>授業の一般目標</b>					
様々な考察方法を思想家たちのテキストに学ぶ。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
期末レポートによる。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	2012923005
<b>開設科目名</b>	フランス語論			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	~
<b>担当教員</b>	武本 雅嗣			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
フランス語の様々な構文について機能的・認知的観点から分析していく。					
<b>授業の一般目標</b>					
フランス語の様々な構文の形式と意味の連関を把握する。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 能動文と受動文と再帰構文やジェロンディフ構文と現在分詞構文の間の形式的・意味的相違について説明できる。					
<b>思考・判断の観点:</b> 種々の構文の制約を説明できる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
レポート:70%					
授業態度や授業への参加度:30%					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
人文612研究室					
<b>オフィスアワー</b>					
火曜日 16:10 ~ 17:40					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	2012923006
<b>開設科目名</b>	フランス語論演習			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	~
<b>担当教員</b>	武本 雅嗣			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
今年度は、Le gerondif en francais を読んでいく。					
<b>授業の一般目標</b>					
フランス語で書かれた論文を読むことによって、フランス語学の知識を深めるだけでなく、論文の書き方や議論の展開の仕方も学んでいく。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 論文を正確に読める。					
<b>思考・判断の観点:</b> 疑問点を解決する					
<b>関心・意欲の観点:</b> 議論に参加できる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
レポート:60%					
授業内発表:40%					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					
火曜日 16:10 ~ 17:40					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	2012923007
<b>開設科目名</b>	フランス文学論			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	~
<b>担当教員</b>	井上 三朗			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
20世紀フランスの代表的な作家、アルベール・カミュの小説『異邦人』をテキストに用いる。この作品の読解・分析をこころみることによって、カミュの作品世界をかいま見たい。					
<b>授業の一般目標</b>					
作品を具体的に読みながら、論じるというかたちをとるので、フランス語の読解力の養成を目指すことはもちろんであるが、同時に、作品の分析をこころみることになるので、文学作品の研究、論じ方の参考になればと願っている。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 小説のフランス語の読解力の向上。					
<b>思考・判断の観点:</b> 文学作品の分析能力の養成。					
<b>関心・意欲の観点:</b> カミュの作品世界への関心。					
<b>技能・表現の観点:</b> 論理的思考の養成。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
平常点(50点)とレポート点(50点)との総合。					
<b>教科書</b>					
異邦人 / アルベール・カミュ:ガリマール書店					
<b>参考書</b>					
異邦人 / アルベール・カミュ:新潮文庫					
<b>メッセージ</b>					
授業への積極的な参加を望む。自由に自分の意見をどしどし発表してもらうことを願っている。					
<b>連絡先</b>					
613研究室。					
<b>オフィスアワー</b>					
月曜日14時30分~16時00分。					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	2012923008
<b>開設科目名</b>	フランス文学論演習			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	~
<b>担当教員</b>	井上 三朗			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
フランスのいわゆるヌーヴェル・クリティックの大家、ジャン・ルーセの『形式と意味作用』の〈序文〉をテキストに用いる。この作品をテキストに用いることで、批評とは何か、文学研究とは何か、ということを知りたい。					
<b>授業の一般目標</b>					
テキストを読み進めることによって、論文のフランス語の読解力を養成することはもちろんであるが、概要のところでも述べたように、批評とは何か、文学研究とは何か、ということを知ることができるので、文学作品を論じる際の手がかりを得たいと思っている。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 論文のフランス語の読解力を養うことができる。					
<b>思考・判断の観点:</b> 批評とは何か、文学研究とは何か、を考えることができる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> いわゆるヌーヴェル・クリティック(新しい批評)に関心を持つことができる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
平常点で評価したいと思っている。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
授業への積極的な参加を望む。					
<b>連絡先</b>					
613研究室。					
<b>オフィスアワー</b>					
14時30分～16時00分。					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	2012924001
<b>開設科目名</b>	言語構造論			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	~
<b>担当教員</b>	平野 尊識			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
後期は、連体修飾構造について言語横断的に考察する。この構造の形成と認識には、二つのタイプが観察される。統語論に基づくタイプと語用論に基づくタイプである。英語は前者のタイプであり、日本語は両方のタイプを持つ。これらのタイプの具体例に基づき整理し、理解を図る。更に、後者の連体修飾構造の本質を明らかにし、その形式化をこころみる。					
<b>授業の一般目標</b>					
連体修飾構造の背後に、どのような規則性やその構成をコントロールする原則がひそんでいるか、それを明らかにする能力を養うことが最終目標である。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> テキストを読んで、理解できること。					
<b>思考・判断の観点:</b> 数学的、論理的思考が出来るか。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 日本語、英語だけでなく、その他の言語の連体修飾構造にも興味を示せるか。					
<b>態度の観点:</b> 積極的に参加し、自分の意見を述べることができるか。					
<b>技能・表現の観点:</b> 第三者に分かり易く説明できるか。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
学期末試験を中心に、授業外レポートの成績を加味しながら評価する。					
<b>教科書</b>					
日本語の分析と言語類型 / 影山太郎 岸本秀樹(編) : くろしお出版, 2004					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
言語学は外国語に興味がない人が来るところではありません。英語の論文を読みますので、そのつもりで受講してください。					
<b>連絡先</b>					
人文617研究室 mail-address:hirano01@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
未定					



<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	2012924002
<b>開設科目名</b>	言語構造論			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	~
<b>担当教員</b>	角田 太作			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<b>授業の一般目標</b>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	2012924003
<b>開設科目名</b>	言語構造論			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	~
<b>担当教員</b>	乾 秀行			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
日本語の系統をめぐる問題は、明治以来日本語に関する最も大きな問題の一つとして言語学者の間だけでなく広く一般の関心を集めてきました。それは日本文化の発祥や日本民族の起源という、多くの人にとって興味のある問題と密接に関連しているからです。そこで本講義では、従来の日本語系統論の議論を検証するため、後期は全く新しい切り口として言語類型地理論的観点からこの問題に迫ってみることにします。					
<b>授業の一般目標</b>					
言語類型地理論について理解を深める。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
出席点、小レポート、期末レポート。					
<b>教科書</b>					
世界言語のなかの日本語ー日本語系統論の新たな地平 / 松本克己: 三省堂, 2007					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
ノートパソコンを使用します。					
<b>連絡先</b>					
f1566@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	2012924004
<b>開設科目名</b>	言語構造論演習			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	~
<b>担当教員</b>	平野 尊識			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
修士論文作成のための演習である。					
<b>授業の一般目標</b>					
修士論文の作成を援助する。受講者が問題を見付け、自主的に研究することが重要。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 言語学の方法を理解しているか。					
<b>思考・判断の観点:</b> 問題点を言語学的に処理できるか。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 問題点を幾つかの言語と比較しながら考察する意欲はあるか。					
<b>態度の観点:</b> 修士論文は、受講者の責任において作成することの認識。					
<b>技能・表現の観点:</b> 分かりやすく説明できているか。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
演習における発表の内容、技能等に基づいて評価する。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
受講者が自ら問題点を見付けてくることが重要である。					
<b>連絡先</b>					
人文617研究室 mail address:hirano01@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
未定					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	2012924005
<b>開設科目名</b>	言語構造論演習			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	~
<b>担当教員</b>	乾 秀行			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
論文指導をします。関連論文を読みながら、問題点を探る。					
<b>授業の一般目標</b>					
修士論文が書けるようになる。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
出席点、期末レポート。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
f1566@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	2012924006
<b>開設科目名</b>	言語構造論演習			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	~
<b>担当教員</b>	和田 学			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
朝鮮語・日本語の対照研究に関する文献を批判的に読み、考察の範囲を拡大・深化させ、データを蓄積して行きます。					
<b>授業の一般目標</b>					
述語の構造について、日朝の違いを理解し、その違いを具体的に理解する。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 先行研究を理解することを目指します。					
<b>思考・判断の観点:</b> 先行研究の主張の可否を検討します。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 自ら、研究の材料となる現象を探します。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
レポートと授業内での参加度で評価します。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	2012924007
<b>開設科目名</b>	言語情報論			<b>単位</b>	2 単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	~
<b>担当教員</b>	PHILLIPS JOHN DAVID			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>This is a course in Machine Translation - making a computer translate from one language into another.</p> <p>Concentrating on the linguistic aspects of the problem, we will look at how to describe English and Japanese grammar in a form which a computer can use, and at how a computer can translate using these descriptions.</p> <p>中級程度の授業なので私の特殊講義(どれでも)の前期を必要とする。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
An understanding of the basic problems and techniques of Machine Translation from a linguist's point of view.					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
期末試験					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
授業では英語をよく使う。					
<b>連絡先</b>					
オフィシアワー					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	2012924008
<b>開設科目名</b>	言語情報論演習			<b>単位</b>	2 単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	~
<b>担当教員</b>	PHILLIPS JOHN DAVID			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>プロログプログラミング(中級)</p> <p>Advanced programming in Prolog</p> <p>プロログで自然言語処理を応用する (NOT for beginners 初級プロログを必要とする。)</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
自然言語処理の基礎から応用までを学ぶ。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
一週間おきに実施するプログラミングの宿題で判定する。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
授業では英語をよく使う。					
<b>連絡先</b>					
初級プロログプログラミング					
<b>オフィスアワー</b>					